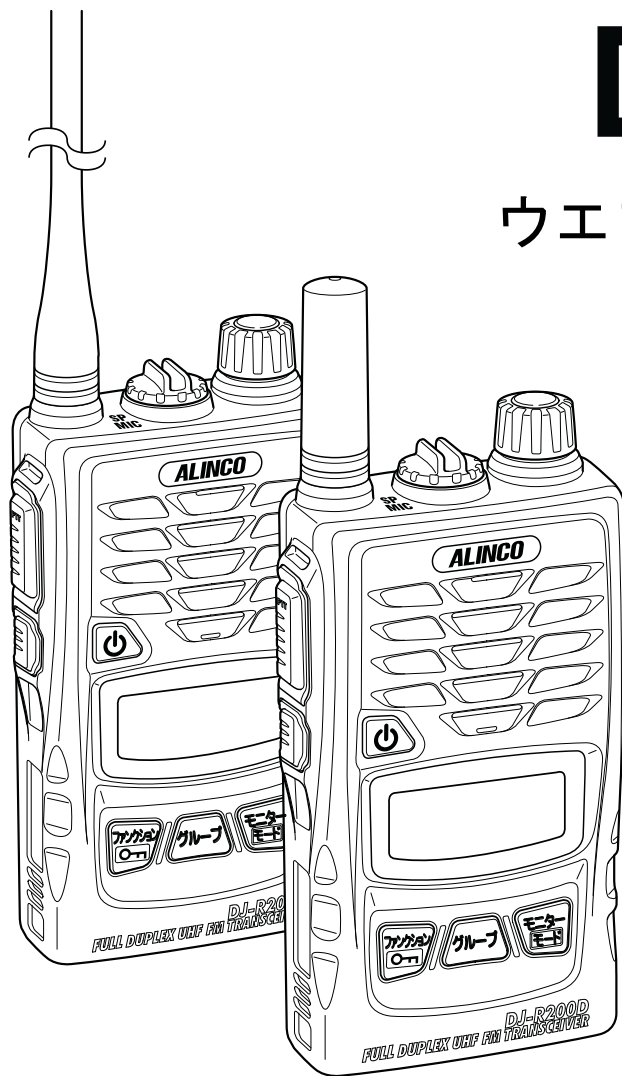
ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

DJ-R200D

ウエブ版 **取扱説明書**

本書は使い方が分からなくなった時にスマートフォンやタブレットなどからお読みいただくために、操作面に特化させて編集したものです。注意書きやクリップの取り付け等、直接の操作に関係しない部分や余白の大きい部分は削除、代わりに拡張セットモードなど製品版説明書に無い資料を加えました。

特にお読みいただきたい部分などは枠で囲ったり、よくあるご質問には赤字で追加説明や黄色でマーキングをしています。

安全にお使いいただくため、必ず製品版の注意文をお読みください。

RoHS

目次

1 お使いになる前に

本機をお使いになる前にお読みください。

・・・・・・・・・ 付属品と取り付け方 ・・・・・・・・・

付属品をご確認ください。

□ ベルトクリップ（ネジ２本）
□ ハンドストラップ
□ 取扱説明書（本書）
□ 保証書

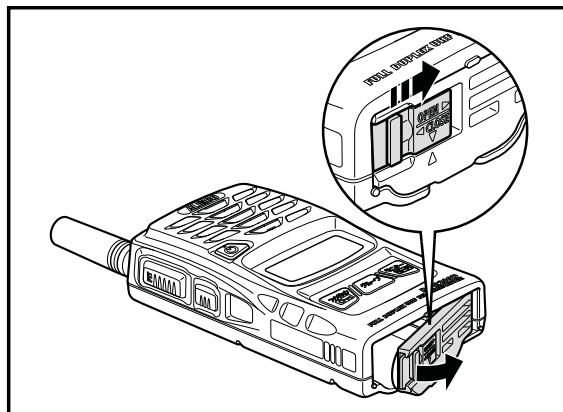
ベルトクリップ、ストラップ
取り付け方法　削除

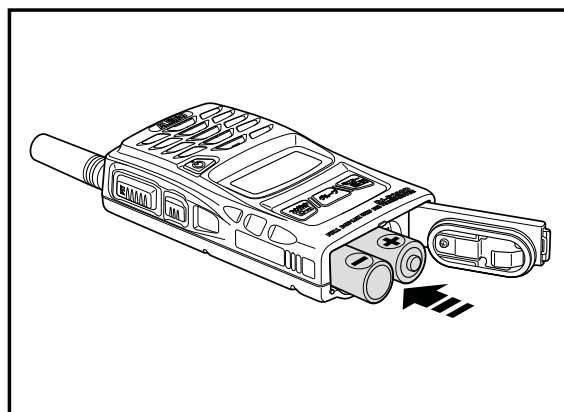
注意 保証書にご購入日の日付が記載されていないときは、領収書やレシートを保証書といっしょに保管してください。ご購入日を証明できる書類がないと保証サービスは無効になりますのでご注意ください。

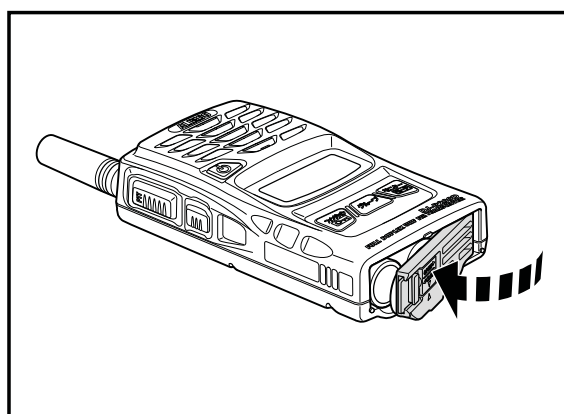
・・・・・・・・・ 電池の入れ方 ・・・・・・・・・

単三形乾電池２本またはオプションのバッテリーパック（EBP-60）を装着します。

❶ カバーを開ける

ロックレバーを OPEN ▷側へスライドさせながらカバーを開けます。

❷ 電池を入れる

単三乾電池２本を､ケース内側の「＋／－」の表示にしたがって装着してください。
バッテリーパックをお使いの際は､バッテリーパックの突起位置を確認して端子が奥になるように装着してください。

❸ カバーを閉める

カバーを本体上方向へ押さえて閉めてください。

- ＋／－の向きを間違わないようにご注意ください。
- 電池は同じ種類の新しいものをご使用ください。
  大容量アルカリ電池の使用をお勧めします。
- 市販の充電池は形状や電気仕様が異なるためご使用になれません。
- 本機を長期間使用しないときは電池を取り外してください。

・・・・・・・・・ 充電方法 ・・・・・・・・・

● バッテリーパックと充電器について

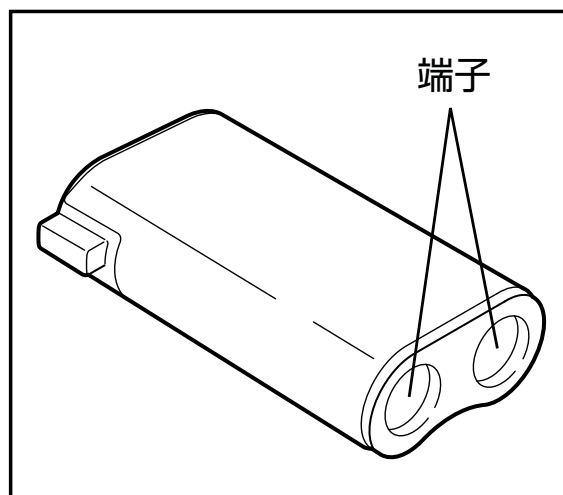
バッテリーパック、充電器および関連するオプション製品は下記のとおりです。

リチウムイオンバッテリーパック	：EBP-60（3.7V-1200mAh）
シングル充電スタンド	：EDC-131
シングル充電器セット	：EDC-131A（AC アダプター付属）
AC アダプター	：EDC-122
ツイン充電器セット	：EDC-167A（AC アダプター付属）
ツイン連結スタンド	：EDC-167R
連結用 AC アダプター	：EDC-162 （EDC-167A/R 連結時必要）

注意

・オプションの バッテリーパックは出荷時には十分には充電されていません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・充電は 0℃～ 40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱、破裂などの恐れがあり大変危険です。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や発熱による火災、火傷の原因になることがあります。
・継続的な充電や放電状態での放置はバッテリーパックの劣化を早める原因になることあります。
・バッテリーパックの保存は、-5℃～ 35℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や湿度が高い場所では、液漏れや金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
・バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命を迎えています。新しいものにお取替えください。

■ バッテリーパックの取り扱いについて

バッテリーパックを持ち運ぶときは端子をショートさせないようご注意ください。
大電流が流れて火災、火傷の原因になることがあります。

■ バッテリーパックの保管について

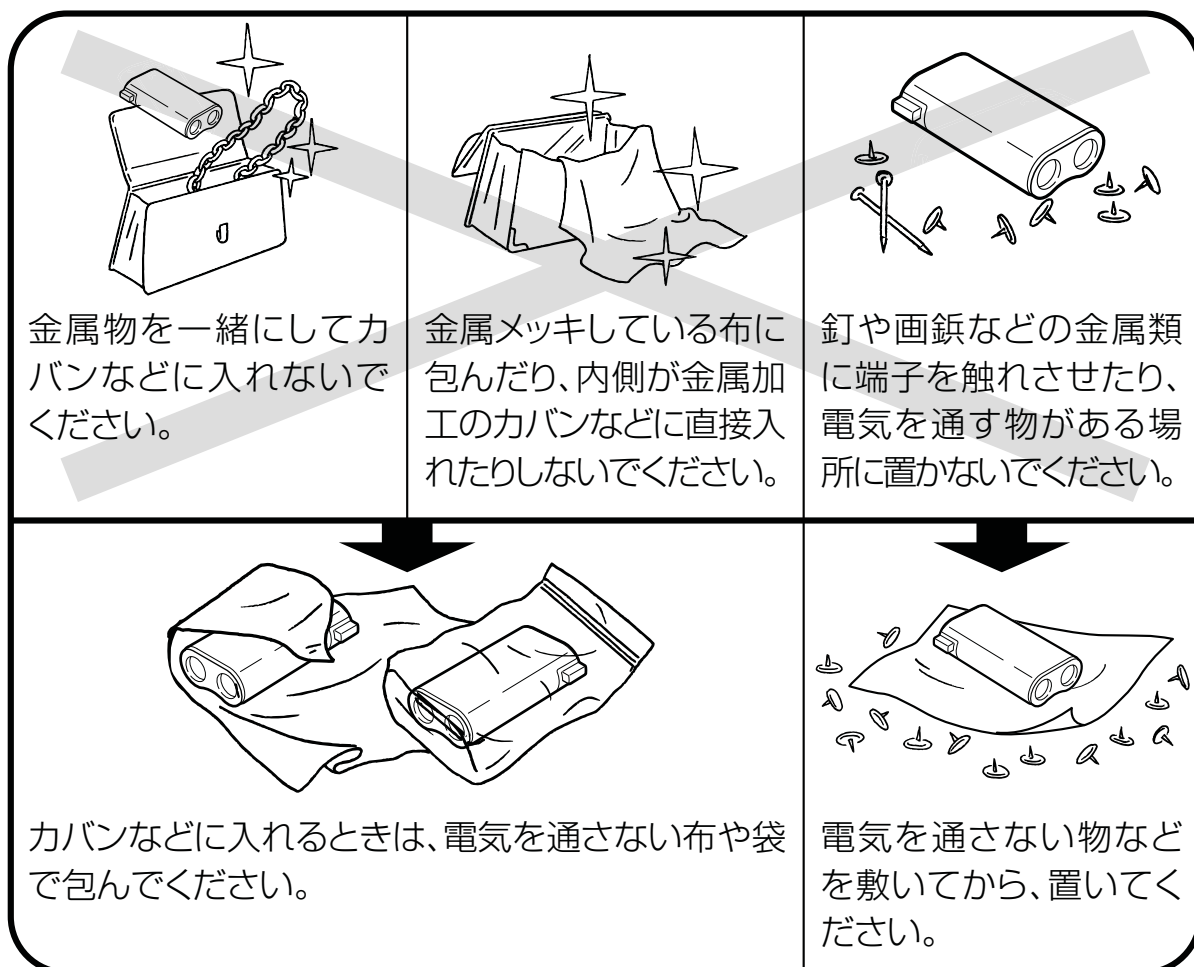
バッテリーパックを保管するときは、以下のことにご注意ください。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

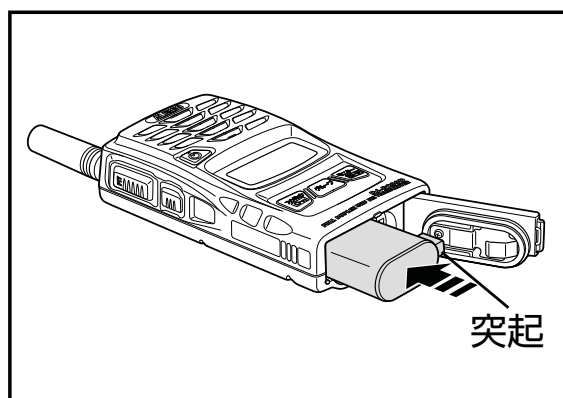
カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

■ バッテリーパックの充電方法

● AC アダプターによる充電方法

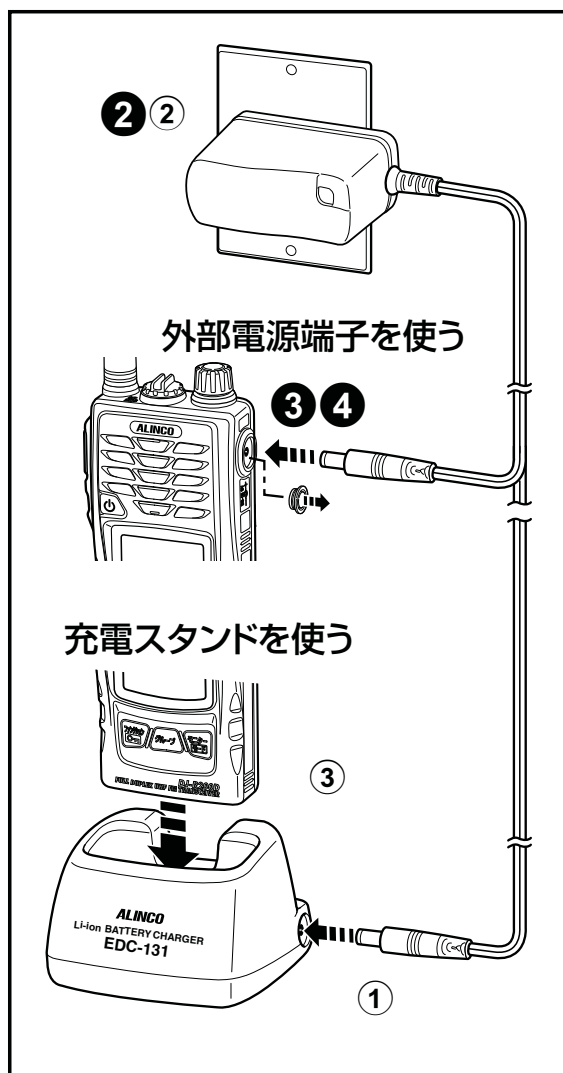
本機にはリチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）用の充電回路が内蔵されています。

1 本機にバッテリーパックを装着します

バッテリーパックの突起位置を確認して、端子が奥になるように装着してください。

❷ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します

❸ トランシーバーの電源を切ります。

❹ 外部電源端子の防水キャップを取り外し AC アダプターのプラグを接続します。
充電が開始されトランシーバーのディスプレイに「CHRGE」が表示されます。
充電が完了するとディスプレイに「FULL」が表示されます。

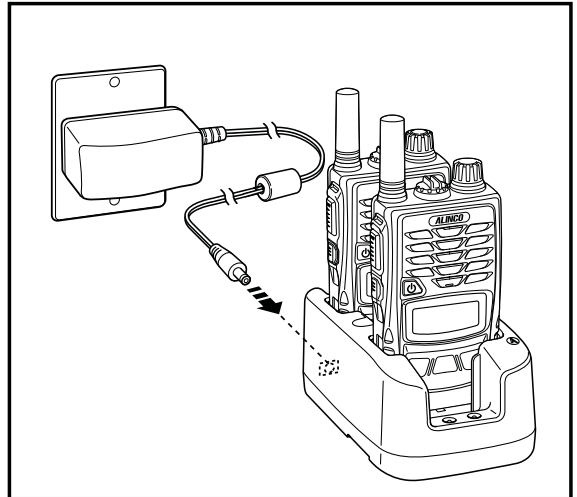
トランシーバーの電源を入れたままでも充電できますが、充電中または充電完了をお知らせする表示がされません。
外部電源端子の防水キャップを取り外した場合は紛失しないようご注意ください。
外部電源を接続しているときは耐塵防浸にはなりません。

● シングル充電器セット（EDC-131A）の使用方法

① AC アダプターのプラグを充電スタンドの電源端子へ接続します。
② AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
③ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始されトランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。充電が完了するとディスプレイに「FULL」が表示されます。

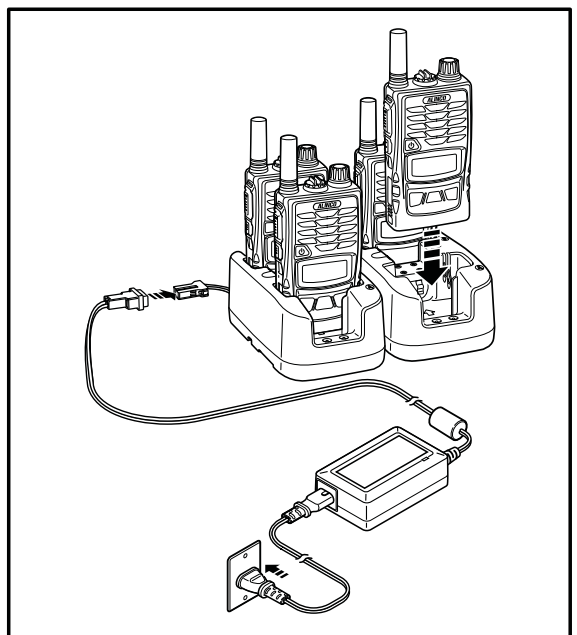
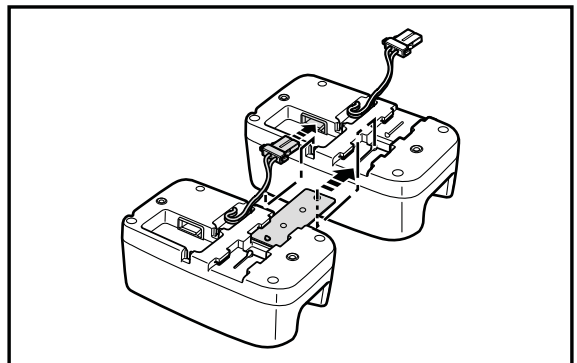
充電器セット（EDC-131A など）に付属している AC アダプターは充電専用です。
送受信音声にノイズが混入するため通話にはご使用になれません。

● ツイン充電器セット（EDC-167A）の使用方法

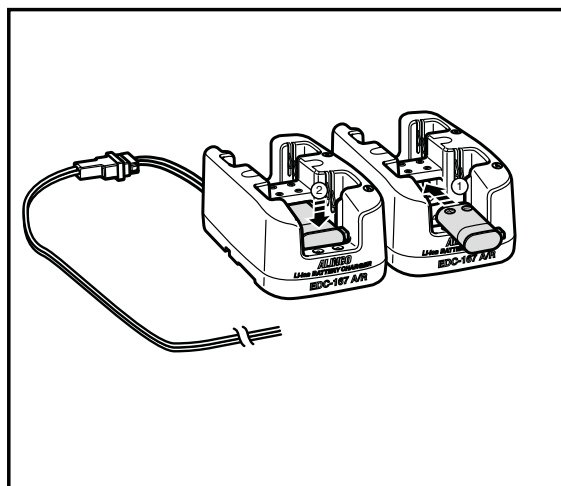
2 台のトランシーバーを同時に充電できます。

① AC アダプターのプラグを充電スタンドの電源端子へ接続します。
② AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
③ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始され充電スタンドの赤ランプが点灯するとともに、トランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。
充電が完了すると赤ランプが消灯し、トランシーバーのディスプレイに「FULL」が表示されます。

● ツイン連結スタンド（EDC-167R）の使用方法

充電スタンドを４台まで連結し、最大で８台のトランシーバーを同時に充電できます。

① 充電スタンドどうしを連結します。
充電スタンド裏面を連結プレートで接続します。
② 充電スタンド裏面のコネクタを接続します。
③ 一端の充電スタンドと連結用 AC アダプター（EDC-162）のコネクタを接続します。
④ AC アダプターを家庭用コンセント AC100V へ接続します。
⑤ トランシーバーの電源を切って充電スタンドのポケットへ挿入します。
充電が開始され充電スタンドの赤ランプが点灯するとともに、トランシーバーのディスプレイに「CHARGE」が表示されます。
充電が完了すると赤ランプが消灯し、トランシーバーのディスプレイに「FULL」が表示されます。

● バッテリーパック単品の充電方法

ツイン充電器（EDC-167A/R）を使用してリチウムイオンバッテリーパック（EBP-60）単品を充電できます。

① バッテリーパックの端子側を充電スタンドの矢印方向へスライドさせて装着します。
充電が開始されると充電スタンドの赤ランプが点灯し、完了すると消灯します。

メモ

- 空のリチウムイオンバッテリーパックを満充電するのに要する時間は約３時間です。
- 充電するときはトランシーバーの電源を切ってください。
- トランシーバーと充電器の充電端子はときどき乾いた布で掃除してください。汚れていると接触不良の原因になります。

注意

トランシーバーやバッテリーパックをツイン充電器の前方のポケットに挿入すると赤色ランプが点灯するが後方のポケットに挿入すると点灯しない、あるいはその逆の動作をすることがあります。
充電開始、完了を決定する回路の個体差によりこのような動作をすることがありますが異常ではありません。
充電器の赤色ランプが点滅したときは AC アダプターのプラグを接続し直してください。
点滅が続く場合はバッテリーパックが寿命を迎えているため新しいものにお取り替えください。

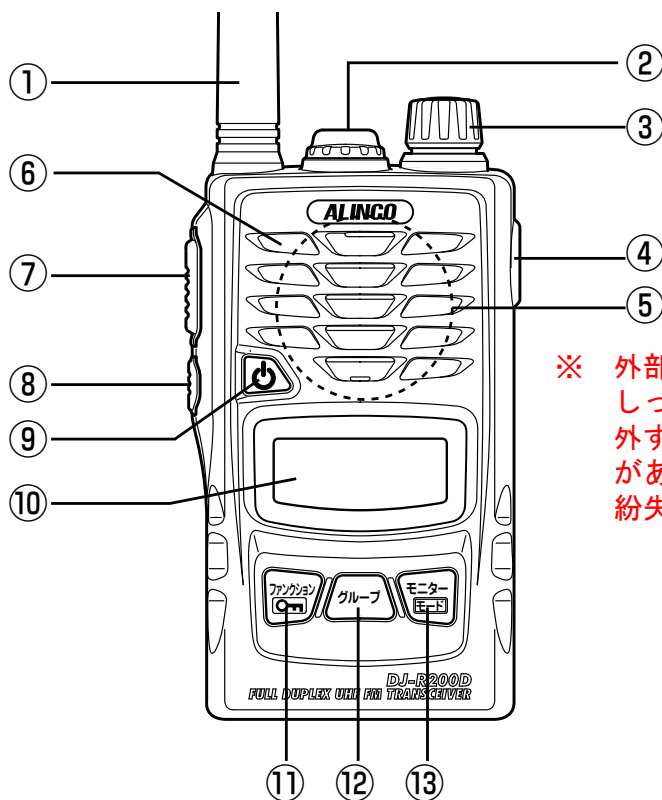
■ AC アダプターでの運用について

外部電源として AC アダプター EDC-122 を常用する場合は、過充電による劣化を防ぐためバッテリーパックは取り外しておくことをお勧めします。

AC アダプター EDC-122 で運用中に AC 電源（AC100V）が停電しその後復旧したときは、本機は自動的に停電前の状態に復帰します。

AC アダプターを使用しているとき送受信音声にノイズが混入する場合は、AC アダプターとトランシーバーを離したりコードの引き回しを変えてください。ノイズが低減することがあります。

・・・・・・・・・ 各部の名前とはたらき ・・・・・・・・・

本機の各部の名前とそのはたらきを説明します。

	説　明	はたらき
①	アンテナ	アンテナは外れないようになっています。
②	イヤホン／マイク端子	オプションのイヤホンマイクなどを接続します。接続するときはプラグを奥までしっかりとねじ込んでください。 使用しないときは防水のためキャップをねじ込んでください。
③	ダイヤル	チャンネル、音量、グループ番号の選択やセットモード設定に使用します。ダイヤルを回してチャンネルを選択します。ダイヤルを押すと音量、グループ番号の選択、F 点灯状態でダイヤルを押すとセットモードの設定ができます。
④	DC-IN	外部電源接続端子です。オプションのACアダプターやシガーライターケーブルを接続します。オプションのバッテリーパックを装着して充電することができます。
⑤	スピーカー	受信音が鳴ります。
⑥	マイク	送信するときに話します。マイクと口もとは約 5 センチ離してください。
⑦	[PTT] キー	送信するときは押しながらマイクに向かって話します。

	説　明	はたらき
⑧	[フック (A/B、サーチ)] キー	同時通話電話モードで応答するときに押します。 中継モード、中継子機モード時に F 点灯状態では周波数帯（A/B）が切り替わります。
⑨	[電源 ⏻] キー	約 2 秒間押して電源を ON/OFF します。
⑩	ディスプレイ	チャンネルや音量、各種設定内容を表示します。
⑪	[ファンクション／ O┳ (ロック)] キー	通話モードの切り替えやセットモードなど各種設定の開始に使用します。約 2 秒間押し続けるとキーロックができます。
⑫	[グループ] キー	グループトーク機能に使用します。メモリーモードの呼び出し、書き込みにも使用します。
⑬	[モニター（モード）] キー	受信信号が弱く音声が途切れるときに使用します。F 点灯状態では通話モードの切り替えに使用します。約 2 秒押すとスキャンを開始します。

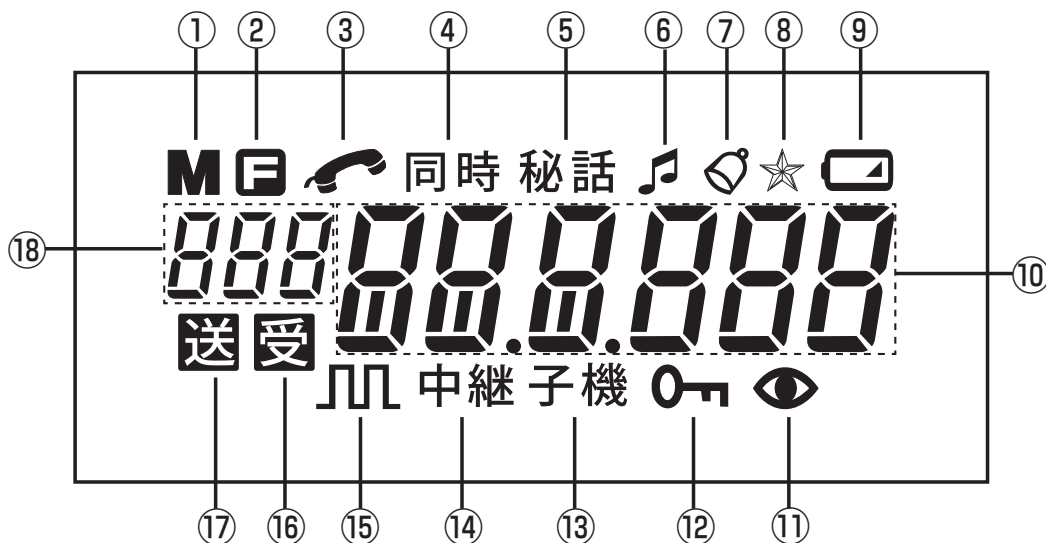
・・・・・・・ キー操作の表記について ・・・・・・・

本書の説明で「押します」とはキーやダイヤルを押したあとすぐに指を離すことを指します。

「約 2 秒間押す」「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。

余白削除

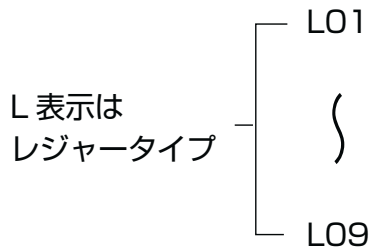
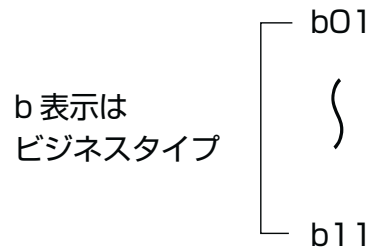
思うような動作をしないとき、普段見かけないマークが出ていないか、その意味は何か、をここでチェックできます。

ディスプレイ

	説　明	本書の説明ページ
①	メモリーモード時に点灯します。	P. 43
②	［ファンクション］キーを押すと点灯します。	
③	電話のように使用できる同時通話時に点灯します。	P. 35
④	同時通話モード時に点灯します。	P. 32
⑤	秘話機能設定時に点灯します。	P. 53
⑥	コンパンダー機能設定時に点灯します。	P. 53
⑦	ベル機能設定時に点灯します。	P. 55
⑧	バイブレーター機能設定時に点灯します。	P. 54
⑨	電池電圧が低下すると点灯、点滅します。	P. 42
⑩	チャンネルやグループ番号、セットモード項目を表示します。	セットモード　P. 51
⑪	ショックセンサーモード時に点灯します。機能説明は弊社ホームページをご覧ください。	
⑫	キーロック中に点灯します。	P. 42
⑬	子機として使用する各モード時に点灯します。	
⑭	中継器または中継子機の各モード時に点灯します。	
⑮	中継器リモコンモード時に点灯します。	巻末追加説明
⑯	受信中に点灯します。	
⑰	送信中に点灯します。	
⑱	モード番号、周波数帯、メモリー番号を表示します。	

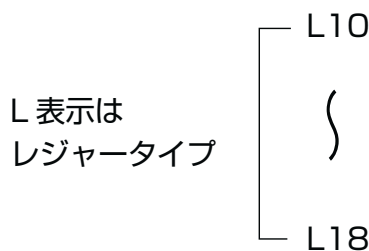
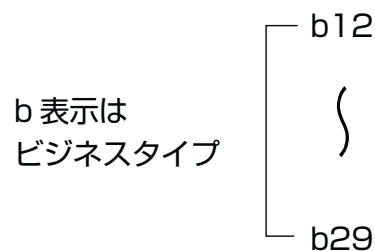
単三形乾電池を使用しての同時通話や中継動作中に、ディスプレイ表示が薄くなることがありますが内部回路の動作仕様であるため異常ではありません。

■ チャンネル表示について

● 交互通話（単信）モード 1

レジャー、ビジネス両方の 20 チャンネルを搭載しています。

L 表示のチャンネルでは、従来のレジャータイプ（9 チャンネル機）と通話できます。

b 表示のチャンネルでは、従来のビジネスタイプ（11 チャンネル機）と通話できます。

●中継、同時通話（半複信、複信）モード 1 以外

レジャー、ビジネス両方の 27 チャンネルを搭載しています。

基本操作

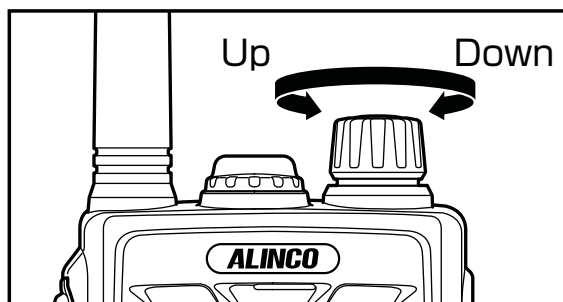
本機の基本となる操作を説明します。

■ 電源を入れる

［電源 ⏻］キーを約 2 秒間押します。
電源を切るときも同じ操作をします。

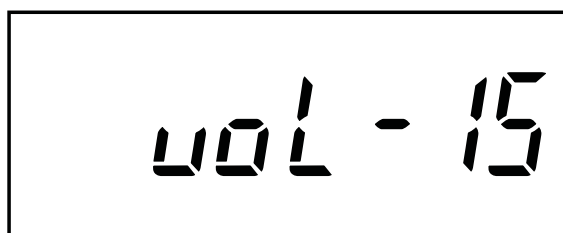
■ チャンネルを設定する

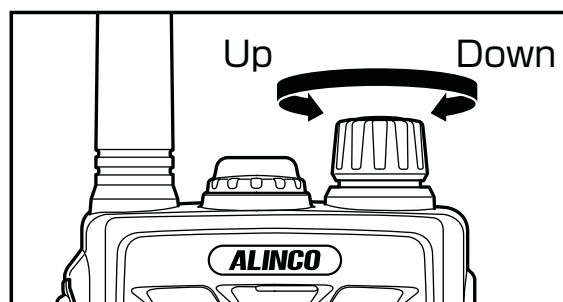
ダイヤルを回して相手機と同じチャンネルに合わせます。L（レジャー）、b（ビジネス）の表示にご注意ください。

ダイヤルを回すとVOL-数字が出るとき
P.51セットモード＞voL-CHをCH-uoLに。

■ 音量を調整する

❶ ダイヤルを押す

ディスプレイに初期状態の音量レベル「voL-15」が表示されます。

ダイヤルを回すとチャンネルが変わるとき
セットモード＞CH-uoLをuoL-CHに。

❷ 音量レベルを調整する

音量レベルの表示中にダイヤルを回すと音量が増減できます。
音量調整は 0 ～ 30 までの 31 段階です。
[モニター] キーを押すと「ザー」というノイズが聞こえ音量調整の目安になります。

音量調整してもイヤホンの音が大きすぎる、小さすぎる
セットモード＞「on Ear-C」　L=音を小さく　H=音を大きく

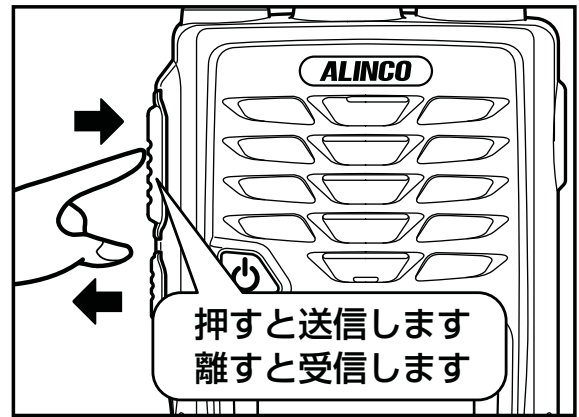
❸ 音量レベルを選択する

適切な音量レベルを選択し [PTT] キーを押して設定を完了します。
→受信待ち受けに戻ります。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

メモ　セットモードの CH/VOL 選択機能で、チャンネル設定と音量調整の手順を逆にすることができます。

モニターボタンを押すと「ザー」と鳴るので目安になります。もう一度押すと止まります。

■ 受信する

信号を受信するとディスプレイの 受 が点灯しスピーカーから相手の声が聞こえます。
適切な音量レベルに調整してください。

■ 送信する

[PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

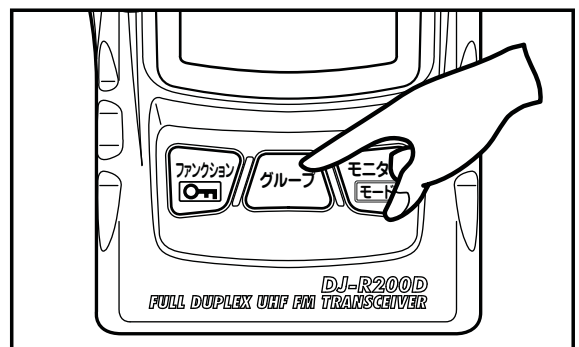
■ 設定を完了する

通話モードの切り替えや各種設定を完了するときは [PTT] キーを押してください。

■ グループトーク機能 通話グループ全員の無線機に設定します。

同じグループ設定の人とだけ通話したいときは、グループトーク機能を使用します。
グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。
初期状態は 01 番に設定されており一般的によく使用されています。混信を避けるため 01 番以外に設定されることをお勧めします。
旧機種や他社製と混用時、この機能が安定して動かないときは
５番以上の大き目の数字に合わせてみてください。

❶ [グループ] キーを押す

→グループ番号が点灯します。

❷ ダイヤルを 2 回押す

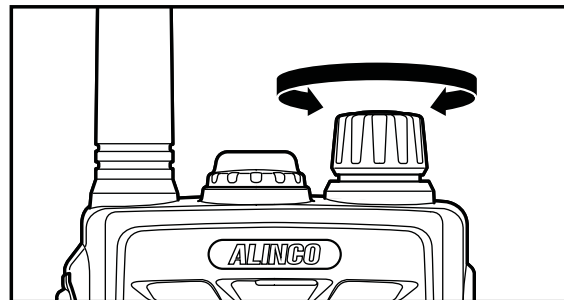
→グループ番号が点滅します。

❸ グループ番号を選択する

グループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループ番号を選択します。

❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。
各キーの無操作状態が約 5 秒続いたときは自動的に設定を完了します。

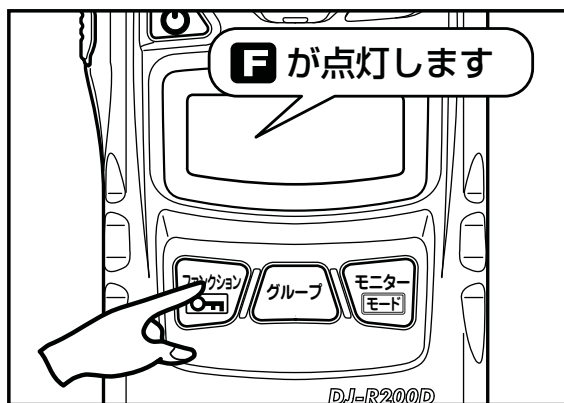
余白削除

2 通話モードの切り替え

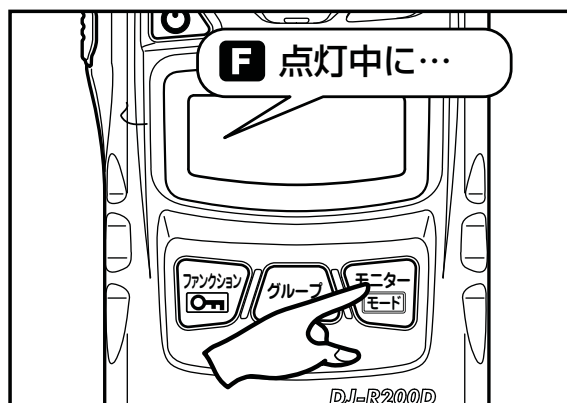
DJ-R200D で使用できる通話モードの概要と操作方法を紹介します。

通話モードの切り替え

工場出荷状態ではもっとも基本的なモード 1 交互通話（単信）に設定されています。通話モードの切り替え方法について説明します。

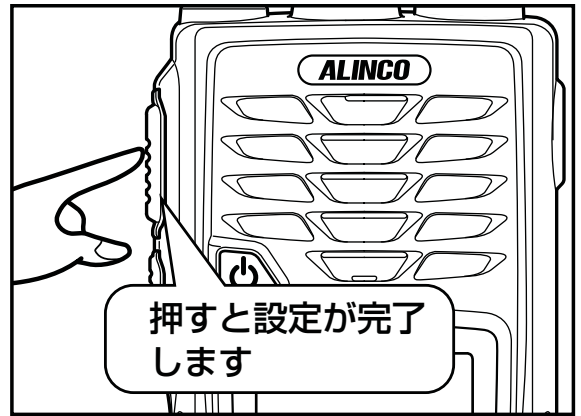
❶ ［ファンクション］キーを押す

→ F が点灯します。

❷ F 点灯中に［モード］キーを押す

→モード番号が点滅します。

❸ 通話モードを選択する

ダイヤルを回し通話モードを選択します。
→モード番号が変わります。

❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。各キーの無操作状態が約５秒続いたときは自動的に設定を完了します。

・・・・・・・・・ 通話モード ・・・・・・・・・

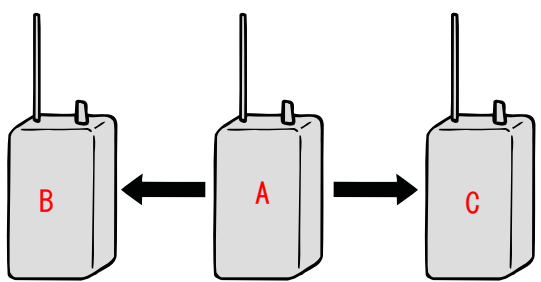
DJ-R200D に搭載されている通話モードの概要を紹介します。
ここではよく使用する通話モードについて説明します。

その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。

通話モード番号は弊社の従来製品と統一しています。

● モード１：交互通話（単信） 設定方法＞P. 31

もっとも基本的な交互通話（単信）モードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。送信するときは［PTT］キーを押して通話します。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通話できます。

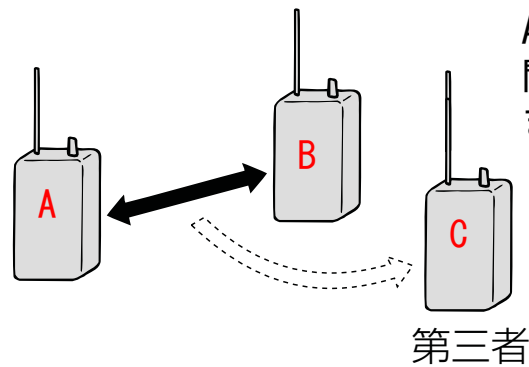
使用チャンネル：L01 ～ L09、b01 ～ b11

任意の一人が話し、残り全員がその声を聴きます。
送信者は常に１人ですが、電波が届く範囲なら
何人でもグループに加われます。

●モード２：同時通話（複信） 設定方法＞P. 32

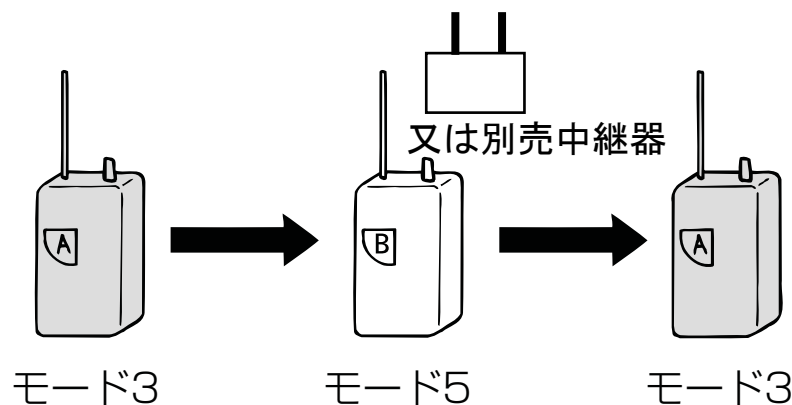
電話のように会話ができる同時通話モードです。本モードは１対１の通話ですが、ループ機能設定時には第三者も通話を聞くことができます。

使用チャンネル：L10～L18、b12～b29

送信するときは交互通話と同じように [PTT] キーを押して通話しますが、電話のように呼び出し応答する「電話タイプ」に切り替えることができます。

同時通話においては必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）などをご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

●モード３：中継子機（半複信） 設定方法＞P. 36

半複信方式の中継器にアクセスする子機モードです。本機のモード５などの中継器を介することで、直接では電波が届かない相手と通話することができます。周波数構成が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも中継器を介して通話できます。

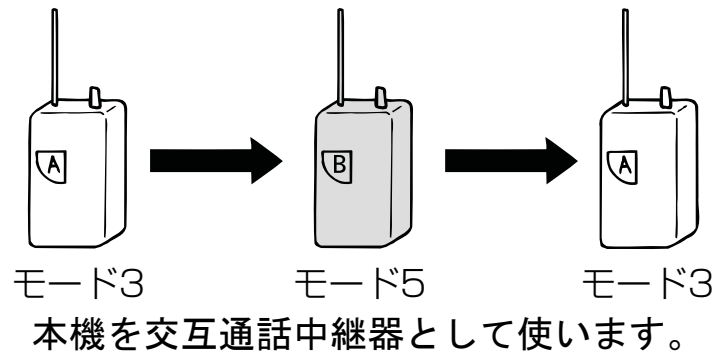
使用チャンネル：L10～L18、b12～b29

交互通話の中継器にアクセスするときの子機モードです。

モード４他、欠番しているモードの説明>P. 27～P. 29

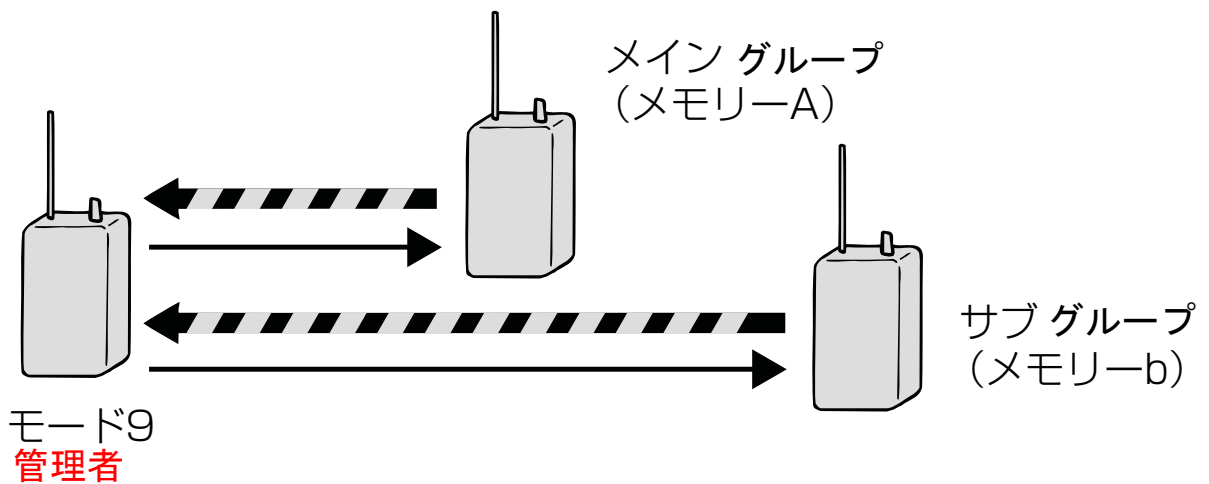
●モード５：中継器（半複信）

半複信方式の中継器として使用するモードです。本機のモード３中継子機でアクセスします。

使用チャンネル：L10～L18、b12～b29

本機を交互通話中継器として使います。

●モード９：デュアルオペレーション 設定方法>P. 39

メイン／サブの２つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。本モードを使用するときは、あらかじめメモリーチャンネルA、bへの登録が必要です。

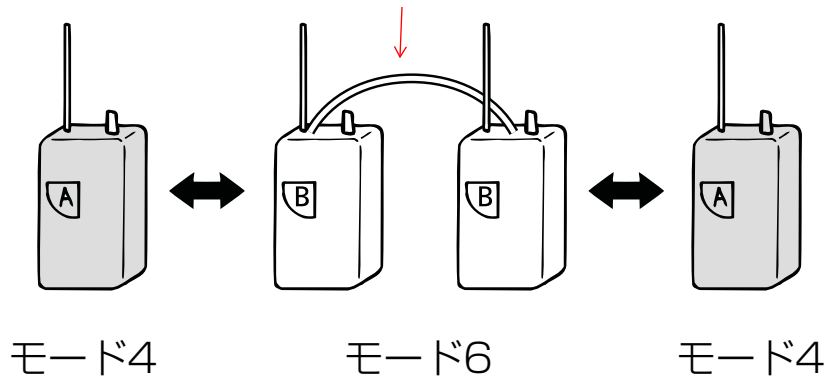
使用チャンネル：L01～L09、b01～b11/
L10～L18、b12～b29

・AとBのグループは、別グループの通信を聞きたくない、聞く必要が無い。
・管理者は両方の通話を聞いて、指示を出す必要がある。
こんな時に使います。管理者、通信グループともユーザー数に制限はありません。
管理者だけモード９にします。

・・・・・・・・・ その他の通話モード ・・・・・・・・・

その他の通話モードの概要を紹介します。
これらの機能は通話モード変更操作で選択できますが、使用方法は本書に記載していないため弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」
操作方法は本書巻末の拡張版説明書にも掲載しています。

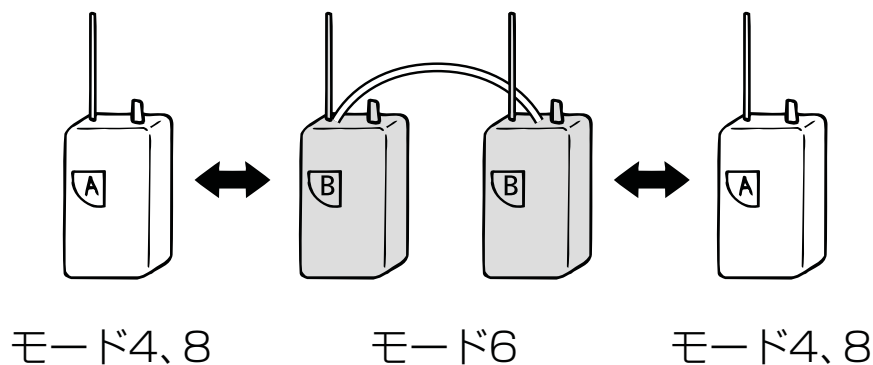
●モード４：複信中継子機 同時通話中継の子機モード

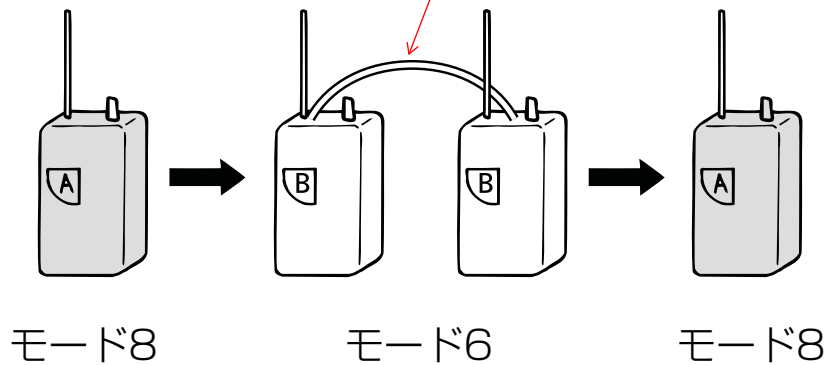
直接では電波が届かない相手と中継器を介して同時通話をする子機モードです。中継器にはモード６を使用します。

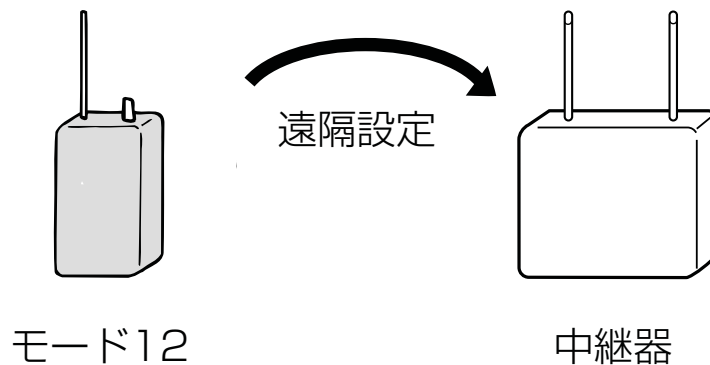
連結ケーブル ADUA-97は別売です。

モード4　　モード6　　モード4

●モード６：複信（連結）中継器 同時通話中継器モード

複信（半複信）方式の中継器モードです。モード４、モード８の子機でアクセスします。

モード4、8　　モード6　　モード4、8

●モード８：半複信連結中継子機 交互通話有線連結の子機モード

直接では電波が届かない相手と中継器を介して交互通話をする子機モードです。
中継器にはモード６を使用します。

●モード 12：中継器リモコン

本機をリモコンとして中継器のチャンネルやグループなどを電波で遠隔設定する機能です。

●モード 13：ショックセンサー

本機には振動や衝撃を検知するセンサーを内蔵しています。
無線機を使用している作業者の転倒を検知したり、簡易的な防犯用途に応用することができます。振動や衝撃を検知すると相手機にアラームや音声ガイダンスでお知らせします。

●モード 14：連続・交互通話（送信休止時間短縮）
●モード 15：連続・同時通話（送信休止時間短縮）

異なる 2 つのチャンネルを自動的に切り替えて連続通話時の送信休止時間を短縮するモードです。

交互通話、同時通話いずれも同様の動作をします。送信出力 Hi（10mW）設定で 3 分送信 2 秒休止の通信制限をなるべく気にせず通話したいときにお試しください。通常は同じチャンネルで連続通話すると 3 分ごとに 2 秒間送信を中断しますが、タイムアウト直前に別のチャンネルに自動的に切り替えることで通話を継続します。

切り替えるチャンネルが空いているかキャリアセンスをおこなうため 3 分ごとに約 0.5 秒間通話が中断します。

本機能の連続通話は電波法や標準規格を順守した上での疑似的なものであり、対応する弊社製の機器間でのみ有効です。

余白削除

通話モード一覧

よく使用する通話モードについては本書にて説明しています。
その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/「電子事業部」

モード番号	通話方式	チャンネル	ディスプレイ表示	取扱説明 巻末に掲載
1	交互通話（単信）	L01～09 b01～11	子機	本書
2	同時通話（PTT タイプ）	L10～18 b12～29	同時 / 子機	本書
	同時通話（電話タイプ）	L10～18 b12～29	同時 / 子機 / （電話アイコン）	本書
3	半複信中継子機	L10～18 b12～29	中継 / 子機	本書
4	複信中継子機（PTT タイプ）	L10～18 b12～29	同時 / 子機 / 中継	弊社ホームページ
	複信中継子機（電話タイプ）	L10～18 b12～29	同時 / 子機 / 中継 / （電話アイコン）	弊社ホームページ
5	半複信中継器	L10～18 b12～29	中継	本書
6	複信（連結）中継器	L10～18 b12～29	同時 / 中継	弊社ホームページ
7	使用しません	―――	―――	――
8	半複信連結中継子機	L10～18 b12～29	中継 / 子機	弊社ホームページ
9	デュアルオペレーション	メモリー A/b	メモリー内容による	本書
10	使用しません	―――	―――	――
11	使用しません	―――	―――	――
12	中継器リモコン	L10～18 b12～29	（アイコン）点滅	弊社ホームページ
13	ショックセンサー	L01～09／b01～11 L10～18／b12～29	子機／（アイコン）	弊社ホームページ
14	連続・交互通話	チャンネルグループ A～H	子機	弊社ホームページ
15	連続・同時通話	チャンネルグループ A～H	同時／子機	弊社ホームページ

・・・・・・・・・ 各モードの操作方法 ・・・・・・・・・

モードごとに操作方法を説明します。ここではよく使用する通話モードについて説明します。

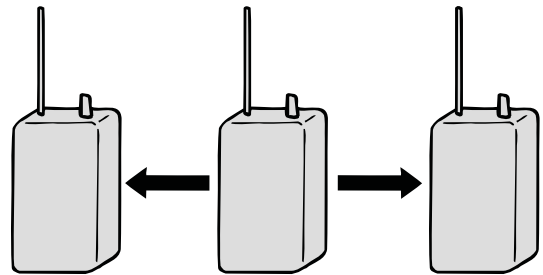
メモ　その他の通話モードや高度な使用方法については弊社ホームページをご覧ください。

別売マイクを使う前にまず本体の設定をして、通話できることを確認してください。
マイクの接続不良を、本体の不良と勘違いされることを防ぐためです。

モード１：交互通話（単信）

もっとも基本的な交互通話（単信）の操作方法です。

❶ 電源を入れる

[電源⏻] キーを約２秒間押します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
グループ機能：グループボタンを押したあと、ダイヤル２回押し下げて、ダイヤルで数字を選択します。

❸ 音量を調整する

ダイヤルを押し、音量レベルが表示中にダイヤルを回します。適切な音量に調整 してください。　（モニターボタンを押したザー音が目安）

❹ 受信 / 送信する

● 受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。ディスプレイの 受 が点灯します。

メモ　信号が弱く相手の声が途切れる場合、[モニター] キーを押してください。スケルチが解除され聞きやすくなることがあります。スケルチとは受信信号がないときに「ザー」というノイズを消す機能です。

モニターキーをもう一度押すと戻ります。

● 送信する

信号を受信していないことを確認してから［PTT］キーを押します。
［PTT］キーを押しながらマイクに向かって話します。
ディスプレイの 送 が点灯します。
［PTT］キーを離すと受信待ち受けに戻ります。

マイクと口もとは約 5 センチ離してください。

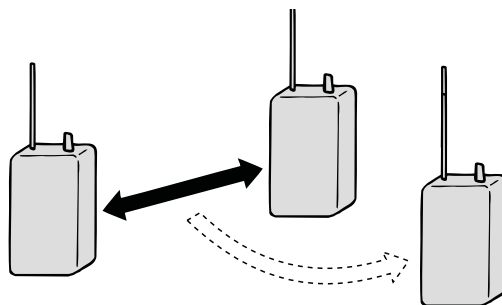
ボタンを押して、わずかに間をおいてから話すと頭切れが起きません。

■ コールトーン機能

送信中に［ファンクション］キー、［グループ］キー、［モニター］キーのいずれかを押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。
突然スピーカーから声が出ると他人に聞かれて困る時など、話す前にこのトーンを使い合図します。

モード 2：同時通話（複信）

電話のように会話ができる同時通話モードです。グループ全員に呼び出しをおこない、最初に応答した人と通話します。モード 2 に設定すると自動的に複信チャンネル（L10 ～ /b12 ～）に移行します。

同時通話モードでは必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）をご使用ください。スピーカーマイクはハウリングが起こるためご使用になれません。

モード 2 には「PTT タイプ」と「電話タイプ」があります。
初期状態では「PTT タイプ」が選択されています。

従来製品では「PTT タイプ」のことを「強制タイプ」と称している場合がありますが同じ機能です。

■ PTT タイプ

一人が話しているときは交互通話のように、二人がPTTキーを押している間は同時通話で話せます。

交互通話のようにお互いの [PTT] キーを押して送信する通話方式です。

❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

❷ モード2に設定する

［ファンクション］キーを押しF 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード２に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

モード２に設定すると自動的にグループトーク機能が ON になりグループ番号が表示されます。グループトーク機能を解除することはできません。

❸ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

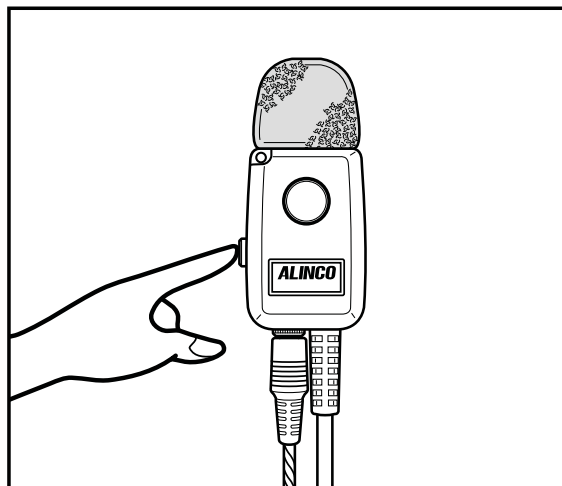
同時通話でチャンネル b12 〜 b29 を選択すると自動的に送信出力は Lo パワー 1mW になり３分制限のない連続送信がおこなえます。1mW 設定時にはチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。
チャンネル L10 〜 L18 は 1mW に設定しても連続送信はできません。

❹ グループ番号を合わせる

ダイヤルを２回押すとグループ番号が点滅します。
点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。
［PTT］キーを押して設定を完了します。

❺ 呼び出す

本機に接続した外部マイクの [PTT] キーを押します。
送 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

※3名以上のユーザーが居るときは通話したい相手の名前を伝えるなど、この呼び出しは便利に使えます。

メモ　ご使用になるオプションマイクによって形状や［PTT］キーの位置は異なります。

❻ 応答する

相手がPTTを押して送信状態になったら同時通話になります。

呼び出しに応答するときは本機に接続した外部マイクの [PTT] キーを押します。
同時通話が成立すると 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。初期状態では、このままPTTキーから指を放せます。
イヤホンマイク等のPTTボタンロックを掛けても、手を離せます。

❼ 通話を終了する

通話を終了するときは外部マイクの [PTT] キーを押します。
送信が停止し 送 が消灯します。

メモ　モード 2 の同時通話においてセットモードの PTT ホールド機能を初期状態の At（AUTO）に設定しておくと自動的に PTT ホールド機能は有効になります。PTT ホールド機能とは［PTT］キーを押し続けなくても送信を保持する機能です。［PTT］キーを押すたびに送信、受信待ち受けになります。 PTTホールドが効かないとき：P.51 ＞ P.57

■ループ機能

3名以上で使うときは、設定することをお勧めします。

セットモードのループ機能を ON にすると通話している 2 人以外の第三者が会話を聞くことができます。送信するトランシーバーすべてのループ機能を ON にしてください。P.51 ＞ P.54

■ 電話タイプ

通話前にベル音での呼び出しが絶対必要な場合を除いて、PTTタイプ設定をお勧めします。

電話のように呼び出し／応答の手順で通話をおこないます。

❶ 外部マイクを接続する

本機にオプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続します。

❷ 通話タイプを切り替える

[ファンクション] キーを押し F 点灯中に [フック] キーを約 2 秒間押します。 が点灯し「電話タイプ」に切り替わります。

❸ チャンネルとグループを合わせる

❹ 呼び出す

本体の［PTT］キーまたは外部マイクの［PTT］キーを押します。
→ 10 秒間呼び出し音が鳴ります。
相手からの応答を待ちます。

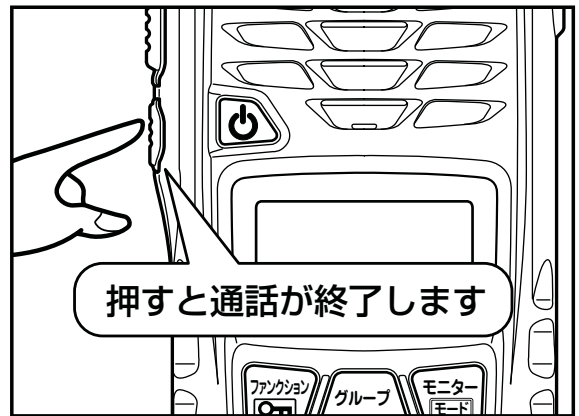
❺ 応答する

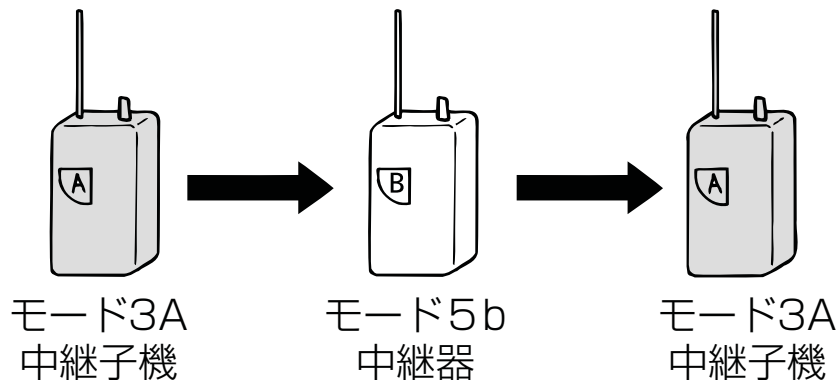
相手から呼ばれたときは 10 秒間呼び出し音が鳴ります。呼び出し音が鳴っている間に本体の［PTT］または［フック］キー、または外部マイクの［PTT］キーを押します。
→同時通話が成立して 送 受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。

❻ 通話を終了する

通話を終了するには本体の［PTT］キーまたは［フック］キー、または外部マイクの［PTT］キーを押します。

通信が途切れたら、呼出し手順を繰り返します。

前述のPTTモードは途切れても操作なしで通話が続けられます。

モード３：中継子機（半複信）

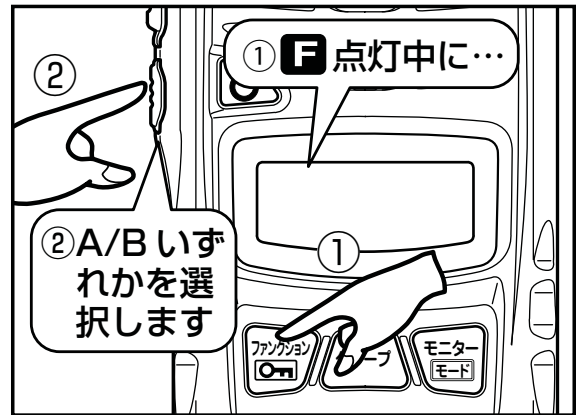
半複信方式の中継器にアクセスする子機モードです。本機のモード５などの中継器を介することで直接では電波が届かない相手と通話することができます。
別途、中継器が必要です。(DJ-P101R、DJ-P111R、DJ-P112R、DJ-R100D、DJ-R200D など)

❶ モード３に設定する

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード３に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

❷ チャンネルとグループ番号を合わせる

ダイヤルを回して中継器とチャンネルを合わせます。
中継器にグループトーク機能が設定されている場合はグループ番号を合わせます。
中継器も子機も、すべて同じチャンネルとグループ番号にします。

❸ 周波数帯を設定する

通常は初期状態の「3A」でご使用ください。
切り替える場合は［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［A/B］キーを押します。
「3A/3b」を選択します。

メモ
ご使用になる中継器の設定をご確認ください。
周波数帯は中継器と逆に設定します。
中継器がAなら子機をB、中継器がBなら子機をAにします。

❹ 送信する

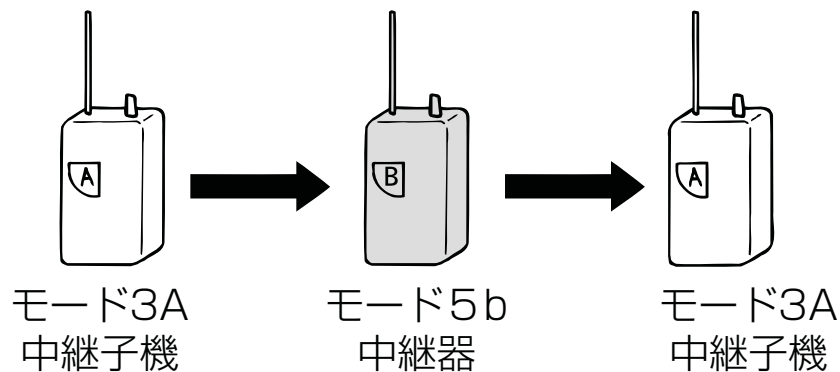
［PTT］キーを押し続けます。
「ピピ」という音が鳴って中継器にアクセスします。
［PTT］キーを押したままマイクに向かって話します。

＊一旦通話が始まると、ピピ音は鳴りません。
＊しばらく通話が無いと、④の手順でピピ音が鳴るまで待ちます。
＊ピピが鳴らないまま３分を経過すると３分タイムアウトになります。

※ 周波数帯とは？
中継や同時通話のL10～L19,b12～b29は、1つのチャンネルに421MHz帯と440MHz帯の２つの周波数をペアとして総務省から割り当てられています。（P.61）
そのどちらを送信側と受信側に割り当てるかを決めるのがA/b切り替えです。
A設定では送信を440MHz側に、b設定では421MHz側に割り当てています。

モード５：中継器（半複信）

半複信方式の中継器として使用するモードです。本機のモード３中継子機でアクセスします。

モード５中継器に設定すると中継動作の反応を速くするため自動的にバッテリーセーブ機能が OFF になりチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。セットモードで ON にすることもできます。

中継器も子機も、すべて同じチャンネルとグループ番号にします。

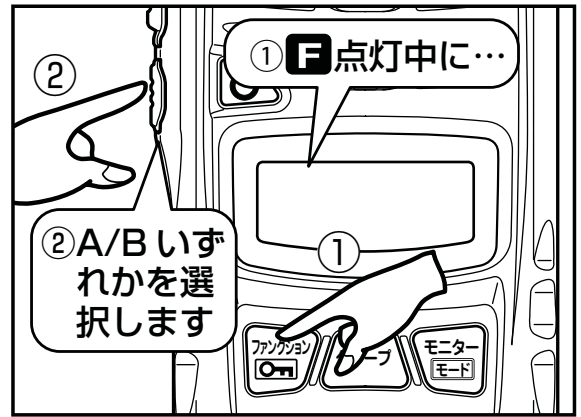
❶ モード５に設定する

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード５に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

❷ チャンネルとグループ番号を合わせる

ダイヤルを回して子機とチャンネルを合わせます。
必要に応じてグループトーク機能に設定します。子機と同じグループ番号に合わせます。

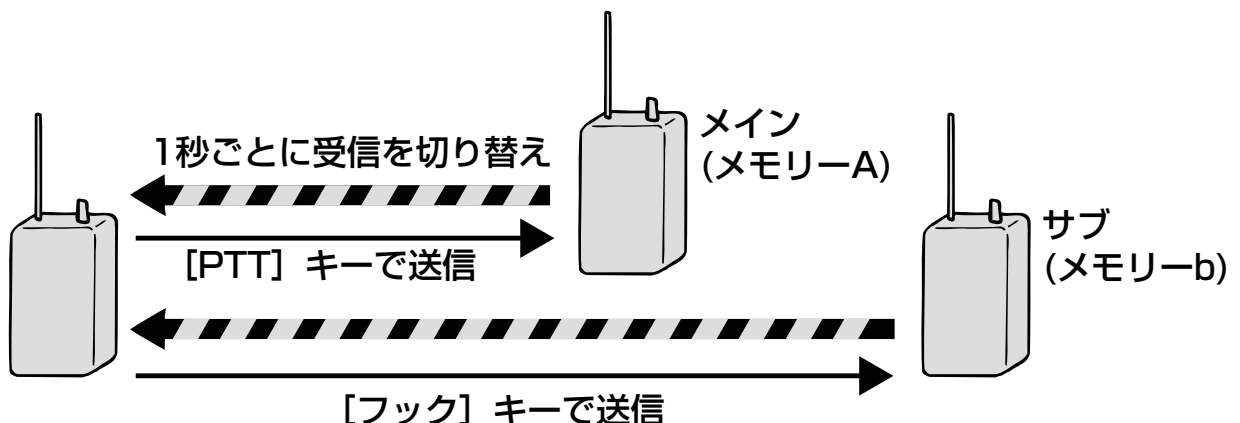
❸ 周波数帯を設定する

通常は初期状態の「5b」でご使用ください。
切り替える場合は［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［A/B］キーを押します。
「5b/5A」を選択します。

・ご使用になる子機の設定をご確認ください。周波数帯は子機と逆に設定します。中継器が A なら子機を B、中継器が B なら子機を A にします。モード 5 中継器のスピーカーから受信音が聞こえます。必要 に応じて音量を調整してください。

・モード 5 中継器はモード 12 中継器リモコンでチャンネルなどを遠隔設定することができます。中継器の電源起動後または外部電源供給後の 10 秒間はリモコンからの設定信号を待ち受けます。使用方法は弊社ホームページをご覧ください。

・モード 5 は中継器として動作するため通話には使用できません。
・それぞれのトランシーバーが至近距離にあると誤動作することがあります。子機 - 中継器間、子機 - 子機間は 10 メートル以上離してください。
・中継器として設置する場合は、直接風雨にさらされる場所や直射日光があたる場所は避けてください。
・AC アダプターを使用する場合は、水分がコードを伝って機器内部へ浸入しないようご注意ください。

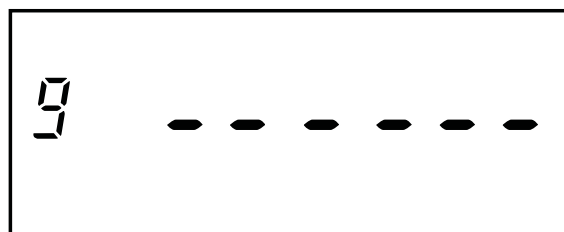
モード 9：デュアルオペレーション

メイン / サブの 2 つのチャンネルを交互に受信し、そのどちらとも通話できるモードです。
本モードを使用するときは、P.40 を参照してあらかじめメモリーチャンネル A、b への登録が必要です。
登録できるモードはモード 1 交互通話とモード 3 半複信中継子機です。

❶ メモリー番号 A/b を登録する

事前に P.43 を参照して、メインに設定する内容を「メモリー番号 A」に、サブに設定する内容を「メモリー番号 b」に登録します。

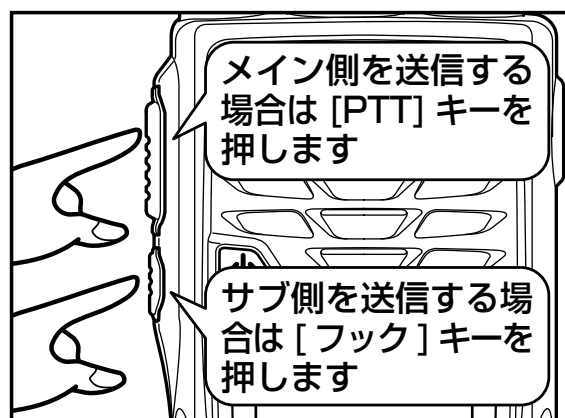
❷ モード 9 に設定する

設定前の表示です。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
→モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード 9 に設定します。［PTT］キーを押して設定を完了します。
→「dUAL」と表示されたあと「メモリー番号 A」をメインに、「メモリー番号 b」をサブとして 1 秒ごとの交互受信待ち受けを開始します。

上記のディスプレイ表示はメモリー A、b に何も登録していないときのものです。
正しく登録されていれば 1 秒ごとにチャンネル表示が切り替わります。

❸ 送信 / 受信する

●送信する

メイン側を送信するときは［PTT］キーを、サブ側を送信するときは［フック］キーを押します。
送信を終了すると 1 秒ごとの交互受信待ち受けを再開します。

オプションの外部マイクをご使用の場合は [PTT] キーを一度押しでメイン側を送信、二度押しでサブ側を送信します。

●受信する

メイン側を受信すると「mAin」と表示され、「ピッ」音が鳴ります。
サブ側を受信すると「SUb」と表示され、「ピピ」音が鳴ります。

デュアルオペレーション動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

3 便利な機能

本機を使用する際に便利な機能を紹介します。

・・・・・・・・ グループトーク ・・・・・・・・

同じグループ設定の人とだけ通話したいときはグループトーク機能を使用します。同じグループのトランシーバーはすべて同じグループ番号に設定してください。グループ番号は 50 通りの中からひとつを選択してください。

本機能は第三者による傍受を防ぐものではないため、グループトーク機能のない同じチャンネルのトランシーバーには話し声が聞こえます。
他のトランシーバーとグループトーク通話したときに信号検出精度が異なるため受信音声が途切れる場合があります。このようなときは違うグループ番号に設定して通話をお試しください。

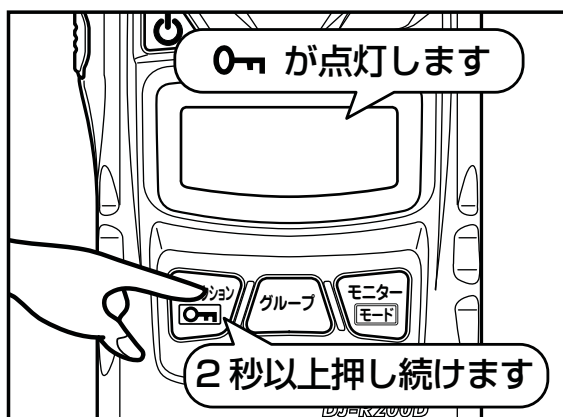
初期状態は 01 番に設定されており一般的によく使用されています。混信を避けるため 01 番以外に設定されることをお勧めします。

グループトークはP. 21で説明済、省略

・・・・・・・・・ キーロック ・・・・・・・・・

キーロックしておくと誤操作を防止できます。

■ 簡易キーロック（LoC-1）

キーを約 2 秒間押します。
→ 「LoC-1」が点滅したあと「」が点灯します。
解除するには同じ操作をします。

■ 通常キーロック（LoC-2）

キーと [グループ] キーを同時に約 2 秒間押します。
→ 「LoC-2」が点滅したあと「」が点灯します。
解除するには同じ操作をします。

メモ
キーロックしていても送信、音量調整、モニター操作はおこなえます。
セットモードのキーロック設定で、キーの押し時間を変更することができます。

・・・・・・・・・ 減電池お知らせ ・・・・・・・・・

電池の電圧が低下すると「」が点灯します。さらに低下すると「」が点滅します。
乾電池をご使用の場合は新しいものに交換してください。オプションのバッテリーパックをご使用の場合は充電してください。

本機の電源を切った状態で充電すると「CHArGE」を表示し「」が点滅します。満充電になると「FULL」を表示し「」が消灯します。
本機の電源を入れた状態で充電したときはチャンネルなどを表示しますが「」は点灯、点滅しません。バッテリーパックの電圧を検知して自動的に充電を開始しその後完了します。

・・・・・・・・メモリーモード・・・・・・・・

あらかじめ登録しておいたチャンネルを呼び出して運用するモードです。登録できる数は、0～9、A、bの12個です。
A､bに登録した内容はモード9デュアルオペレーションで使用します。

■ メモリー登録

❶ 状態を設定する

登録したい状態にモード、チャンネル、グループトークなどを設定します。

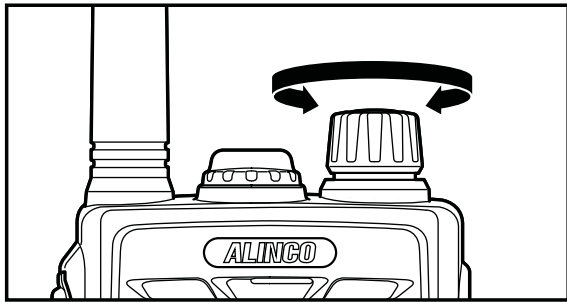
❷ [ファンクション]キーを押す

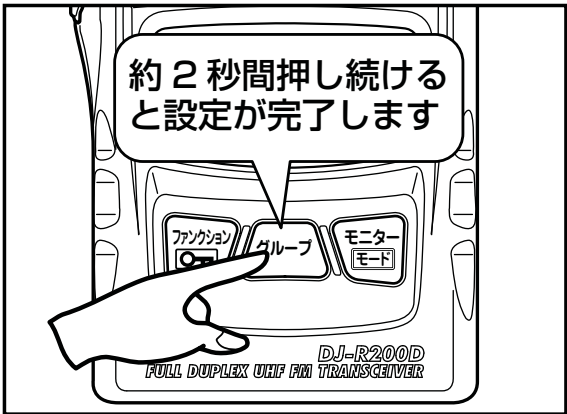
→**M**とメモリー番号が点滅します。

メモ　既に登録済みのメモリーチャンネルは番号が点灯します。

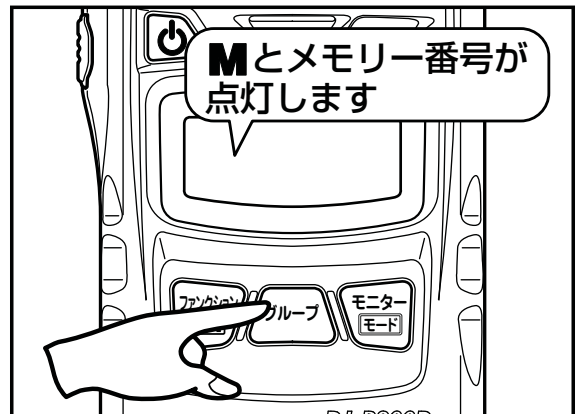
登録済みのチャンネルを選ぶと、新しく編集したデータを上書きして保存できます。

❸ メモリー番号を選択する

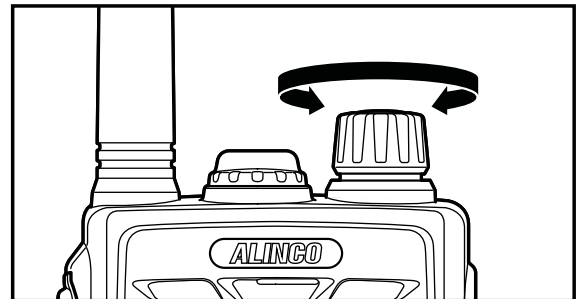
ダイヤルを回し登録したいメモリー番号（0～9、A、b）を選択します。

❹ 登録する

[グループ]キーを約2秒間押します。
→「writE」が表示されメモリーに設定した内容が登録されます。

■ メモリー呼び出し

❶ メモリーモードへ切り替える

[グループ]キーを約２秒間押します。
→**M** とメモリー番号が点灯しメモリーモードに切り替わります。

❷ メモリー番号を選択する

ダイヤルを回し使用するメモリー番号を選択します。

通常の通話モードへ戻すには再度 [グループ] キーを約 2 秒間押します。
→**M** とメモリー番号が消灯します。

メモ メモリーモード時に登録された通話モードを確認するには [グループ] キーを押します。
またセットモードのメモリー表示機能でメモリー番号と通話モードのどちらを優先して表示させるかを選択することができます。

■ メモリー消去

※完全リセットは拡張セットモードの設定まで消してしまいます。
通常は使わないで、上書きか個別消去をしてください。

~~登録されたすべてのメモリー内容を一括して消去するには完全リセット操作をおこなってください~~。特定のメモリー内容を消去するには、メモリー登録操作で該当のメモリー番号を選択して点灯させ [モニター] キーを約 2 秒間押します。「ErASE」が点灯します。
メモリー内容はメモリー登録操作で上書きすることにより変更できます。

・・・・・・・・緊急通報・・・・・・・・

本機を簡易的な緊急通報機器として使用する機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万一の際にはアラーム音を送信し相手機にお知らせします。モード１交互通話とモード３中継子機で使用できます。

❶ 通話モードを設定する

モード１交互通話またはモード３中継子機に設定します。

❷ チャンネルを合わせる

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ 緊急通報を発する

ダイヤルを約３秒間押します。

→ 緊急通報を発しアラーム音を10秒間送信します。信号を受信した相手機からはアラーム音が鳴ります。

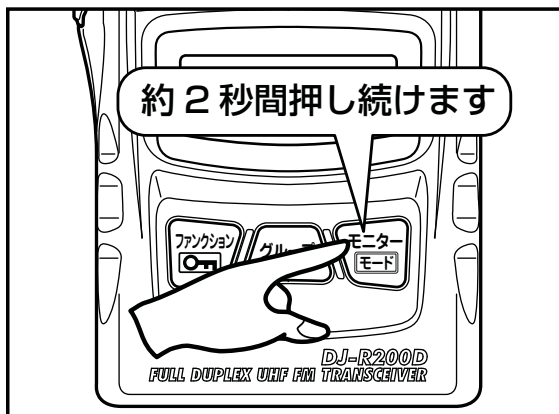
メモ　モード３中継子機で本機能をご使用になるときは、本機モード５中継器や他の中継器が必要です。

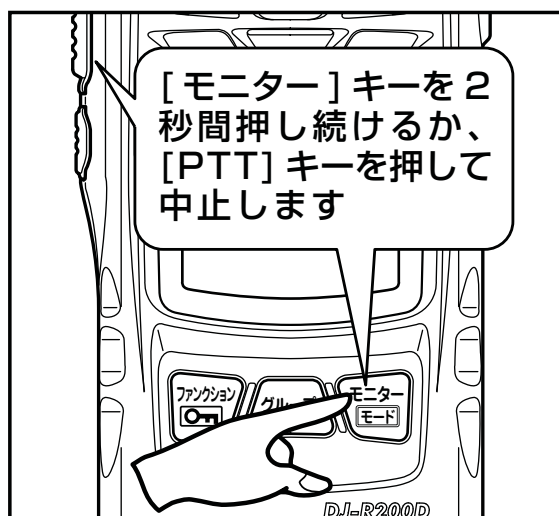
勝手にチャンネルが動いて困ったときは
この設定と次のページの項目をチェックしてください。

スキャン

自動的に受信チャンネルを切り替えて信号を探す機能です。
信号を見つけるとスキャンが止まり、信号がなくなると再開します。
モード１交互通話とモード３中継子機で使用できます。

❶ スキャンを開始する

[モニター]キーを約２秒間押します。
自動的にチャンネルが切り替わり信号を探します。

❷ スキャンを停止する

[モニター]キーを約２秒間押すか[PTT]キーを押します。

注意 スキャン動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

メモ メモリーモードにして同じ操作をすると、登録されたメモリーチャンネルだけをスキャンします。

・・・・・・ フリーチャンネルサーチ ・・・・・・

自動的に空いているチャンネルを見つけて通話する機能です。モード1交互通話でのみ使用できます。
本機能を使用する双方のトランシーバーを同じ設定にしてください。

フリーチャンネルサーチはL01～L09間、またはb01～b11間のみをサーチするため、あらかじめLチャンネルまたはbチャンネルのいずれかを選択してください。

❶ グループトークモードにする

[グループ] キーを押します。
→グループ番号が点灯します。

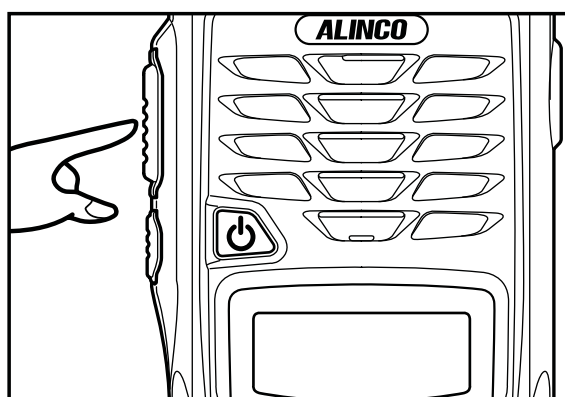
❷ グループ番号を合わせる

ダイヤルを2回押しグループ番号が点滅中にダイヤルを回しグループを選択します。［PTT］キーを押して設定を完了します。

❸ フリーチャンネルサーチを開始する

[サーチ] キーを約2秒間押します。
→ サーチが開始され自動的にチャンネルが切り替わります。

● 相手を呼び出す

[PTT] キーを押します。
→ 空きチャンネルがあればそこで止まり5秒間送信して相手を呼び出します。

● **送信する**

呼び出した相手から送られて来た「ピピ」という応答音を確認したら [PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

● **受信する／応答する**

サーチ中に相手からの呼び出しがあると受信したチャンネルで止まります。しばらくすると呼び出し音が鳴り、相手の声が聞こえます。
呼び出しに応答するときは [PTT] キーを押しながらマイクに向かって話します。

メモ　5 秒間応答がないか通話が途切れるとサーチが再開されます。

❹ フリーチャンネルサーチを終了する

[サーチ] キーを約 2 秒間押します。
→サーチが終了します。

注意　フリーチャンネルサーチ動作中はバッテリーセーブ機能が働かないため電池の消耗が早くなります。

以下の２項目は設定なしで「使用する」状態になっています。

・・・・・・ イヤホン断線検知 ・・・・・・

オプションのイヤホンマイクなどを接続して電源を入れた時に、イヤホンが断線していないか自動で検知をおこないます。
もし断線していれば異常であることをディスプレイ表示「EAr-nG」と音声ガイダンスでお知らせします。
セットモードの最後のメニュー Ear-C　でオフにできます。

・・・・・・ テールノイズキャンセラー ・・・・・

受信終了時の「ザッ」というノイズを低減する機能です。
本機能を搭載した弊社機器間の通話においてのみ有効です。
拡張セットモードでオフにできますが、対応しない機種では効果が無いだけなので、敢えてオフを選ぶ必要はありません。

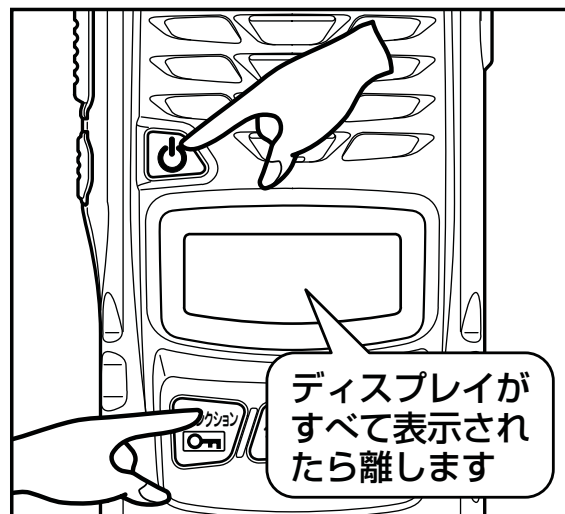
・・・・・・・・・リセット・・・・・・・・・

設定を初期化するときはリセットします。リセットには 2 つの方法があります。

簡易リセット：設定状態がわからなくなったときに初期化します。
完全リセット：工場出荷状態に戻ります。

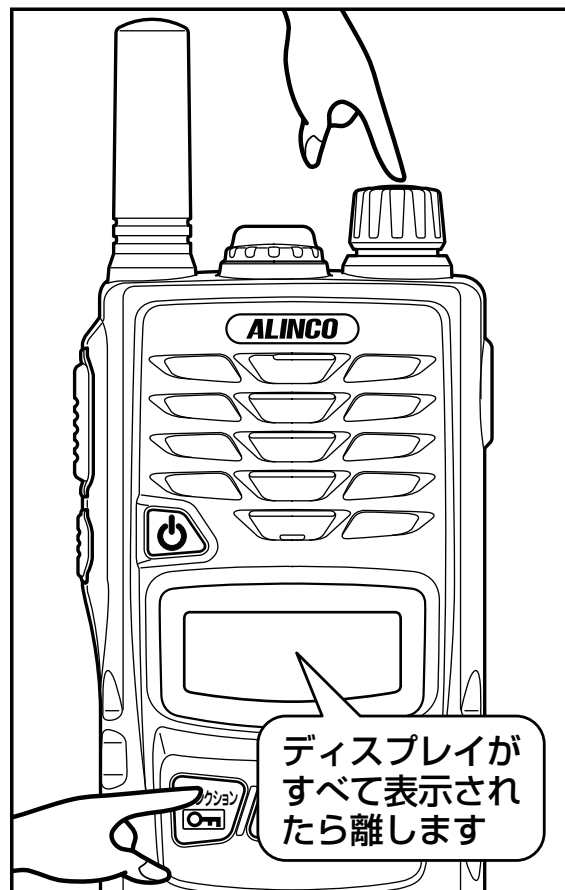
■ 簡易リセット

[ファンクション] キーを押しながら電源を入れます。
→ ディスプレイが全点灯中にキーを離します。

簡易リセットでは登録済みメモリーは保存されます。標準セットモードの設定内容は初期化されますが、上級セットモードの設定内容は保存されます。

通常は使いません！

■ 完全リセット

[ファンクション] キーとダイヤルを押しながら電源を入れます。
→ ディスプレイが全点灯中にキーを離します。

完全リセットでは登録済みメモリーは消去されます。標準セットモードおよび上級セットモードのすべての設定内容は初期化されます。

管理者が設定する上級設定まで消してしまいます。
業務で無線機を貸与されてお使いの場合、このリセットは絶対にしないでください。

弊社にお尋ね頂いても、どのようにプログラムされていたかは分かりかねます。

無線機管理者の方へ：
巻末の拡張版説明書のレストア機能をお使いになれば、リセット前の状態を記憶させ、リセット後でもその状態に回復できます。

セットモード

１７～３０の項目は、一般ユーザーが変更する必要は少ないものです。
興味本位で安易に設定すると誤動作や故障のように見えることがあります。

各種機能を用途に合わせてカスタマイズすることができます。
本書ではよく使用する標準セットモードについて説明します。
本書に記載していないその他の標準セットモードおよび上級セットモードについては弊社ホームページをご覧ください。

・・・・・・・・・ セットモード一覧 ・・・・・・・・・

	カスタマイズ項目	初期値	参照ページ
1	CH／VOL リバース	CH	P.52
2	コンパンダー	OFF	P.53
3	秘話	OFF	P.53
4	ループ（第三者受信）	OFF	P.54
5	着信バイブレーター	OFF	P.54
6	ベル	OFF	P.55
7	バッテリーセーブ	ON	P.56
8	オートパワーオフ	OFF	P.56
9	ランプ	5（秒）	P.57
10	PTT ホールド	At	P.57
11	送信出力	At	P.58
12	VOX	OFF	P.58
13	操作音量	3	P.59
14	サウンド	bP	P.59
15	エンドピー	OFF	P.60
16	コールバック	OFF	P.60
17	ディスプレイ表示	modE	弊社ホームページ
18	スケルチレベル	3	弊社ホームページ
19	キーロック時間	2（秒）	弊社ホームページ
20	メモリー表示	Number	弊社ホームページ
21	音色変更	1	弊社ホームページ
22	中継器アラーム	OFF	弊社ホームページ
23	中継器ハングアップタイマー	0（秒）	弊社ホームページ
24	中継器接続手順	On2	弊社ホームページ
25	中継器バッテリーセーブ	OFF	弊社ホームページ
26	電池電圧参照	-	弊社ホームページ
27	PTT オフ	ON	弊社ホームページ
28	LCD 消灯	ON	弊社ホームページ
29	外部音量変更	H	弊社ホームページ
30	イヤホン断線検知	ON	弊社ホームページ

17～30 の設定方法は本書に記載しておりません。~~弊社ホームページをご覧ください。~~本書の巻末、拡張版説明書を参照ください。
セットモードの設定内容は簡易リセットすると初期化されます。

・・・・・・ セットモードの設定方法 ・・・・・・

❶ セットモードにする

[ファンクション] キーを押します。
→ F が点灯します。

Mと数字も表示されます。

❷ ダイヤルを押す

F 点灯中にダイヤルを押します。
→ セットモードの項目が表示されます。
ダイヤルを押すごとに項目が切り替わります。[フック] キーを押すと前項目に戻ります。

❸ 設定値を変更する

ダイヤルを回して ON ／ OFF を設定したり値を選択します。

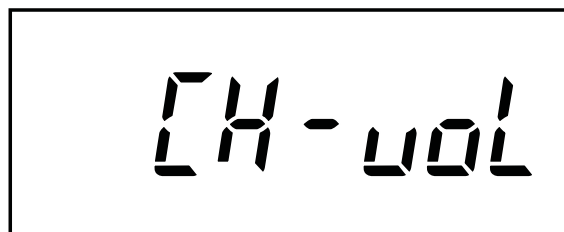
❹ 設定を完了する

[PTT] キーを押して設定を完了します。

・・・・・・CH/VOL リバース・・・・・・

ダイヤルを回したときにチャンネル変更と音量調整のどちらの操作をするかを選択できます。
初期状態ではチャンネル変更するように設定されています。

❶ CH/voL の設定をする

セットモードにして「CH-voL」を選択します。

❷ CH/voL を切り替える

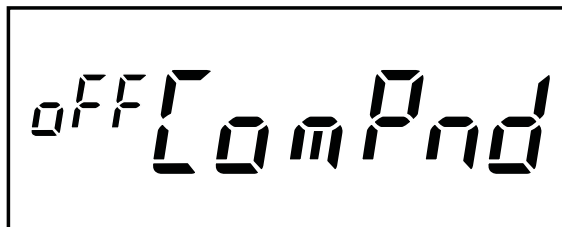
ダイヤルを回して「CH-voL」または「voL-CH」を選択します。
→「voL-CH」を選択するとダイヤルを回した時に音量調整ができます。

「CH-voL」が選択されていてもキーロック中にダイヤルを回すと音量調整になります。

‥‥‥ コンパンダー ‥‥‥

受信中の「サー」というバックノイズを低減する機能です。
初期状態では OFF に設定されています。

❶ コンパンダーの設定をする

セットモードにして「ComPnd」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。
→ ON にすると「♫」が点灯します。

コンパンダー非対応機と混用するときは、全員がコンパンダーを使わないでください。

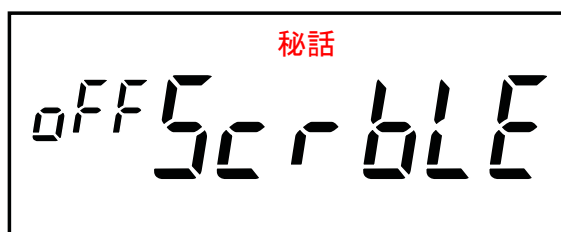
~~コンパンダー機能のないトランシーバーとも通話できますがバックノイズが増え音声が聞き取りにくくなることがあります。そのようなときは本機能を OFF に設定してください。~~

‥‥‥ 秘話 ‥‥‥

秘話（スクランブルトーク）を設定すると他のグループの人には会話の内容が聞き取れなくなります。

「モガモガした声」と言われたときはこの設定と拡張セットモードの秘話関連項目をチェックしてください。

❶ 秘話の設定をする

セットモードにして「ScrbLE」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON ／ OFF を設定します。
→ ON にすると「秘話」が点灯します。

同じ方式の秘話機能を持った弊社製トランシーバーと通話できます。
一部の従来製品とはキャリア周波数が異なるため、受信音声が聞き取りにくいことがあります。

同じ方式の秘話機能を持ったトランシーバーでは会話が聞き取れるため、盗聴や傍受を防ぐ機能ではありません。

・・・・・・ループ（第三者受信）・・・・・・

モード 2、モード 4 の同時通話で第三者が会話を聞くことができる機能です。初期状態では OFF に設定されています。
モード２の同時通話でお使いの時は、すべてのユーザーにこの設定をしておくことをお勧めします。

❶ ループの設定をする

セットモードにして「AFLooP」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

本機能は会話を聞く第三者（受信者）ではなく送信者のトランシーバーに設定してください。
モード 2 で使用するときは最初に呼び出しをおこなうトランシーバーに設定します。両方のトランシーバーに設定しても問題ありません。
モード 4 で使用するときは片方のトランシーバーにのみ設定してください。両方のトランシーバーに設定すると原理上ハウリングが発生します。

モード４や６でお使いの時はご注意ください。

・・・・・・着信バイブレーター・・・・・・

受信したことをバイブレーターの振動でお知らせします。初期状態では OFF に設定されています。

❶ バイブレーターの設定をする

セットモードにして「vib」を選択します。

❷ 振動タイプを選択する

ダイヤルを回して振動のタイプと時間を選択します。
A10 ： A タイプ振動 10 秒間
b10 ： b タイプ振動 10 秒間
A20 ： A タイプ振動 20 秒間
b20 ： b タイプ振動 20 秒間
→バイブレーターを設定すると「☆」が点灯します。

メモ 一定時間（10 秒または 20 秒間）通話が途切れたあとに受信したときバイブレーターが作動します。

ベル

呼び出されたことを表示とベル音でお知らせします。初期状態ではOFF に設定されています。

❶ ベルの設定をする

セットモードにして「bELL」を選択します。

oFF bELL

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

メモ 一定時間通話が途切れたあとに受信したとき 10 秒間ベルが作動します。

・・・・・・ バッテリーセーブ ・・・・・・

待ち受け状態が5秒以上続くと内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消費を抑える機能です。初期状態ではON1に設定されています。

❶ バッテリーセーブの設定をする

セットモードにして「bS」を選択します。

❷ ON ／ OFF、セーブモードを設定する

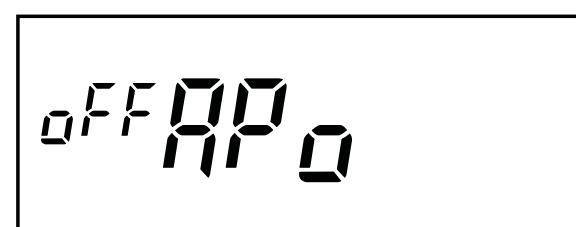
ダイヤルを回してON ／ OFFやセーブモードを設定します。
OFF、ON1、ON2（ロングBS)、ECO（エコBS）から選択します。
ロングBSは低消費モード、エコBSはさらに低消費モードです。
→バッテリーセーブ機能をOFFに設定するとチャンネル表示部に「.（ドット)」が点灯します。

注意 ロングBSとエコBSでは受信音声が出力される際に頭切れを起こすことがあります。
本機能をOFFにすると受信音声出力の反応はよくなりますが、電池の消耗が早くなります。

・・・・・・ オートパワーオフ ・・・・・・

電源の切り忘れを防ぐ機能です。無操作状態が設定時間続くとビープ音でお知らせし自動的に電源が切れます。初期状態ではOFFに設定されています。

❶ オートパワーオフの設定をする

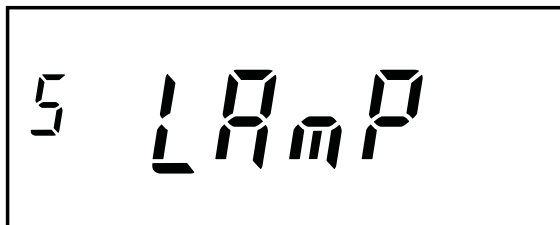
セットモードにして「APO」を選択します。

❷ 時間を設定する

ダイヤルを回して電源が切れるまでの時間を設定します。
OFF、30分、60分、90分、120分から選択します。

･･････ランプ･･････

ディスプレイ照明を設定する機能です。初期状態では５秒に設定されておりキー操作をすると５秒間照明が点灯します。

❶ ランプの設定をする

セットモードにして「LAmP」を選択します。

❷ 照明の点灯時間を設定する

ダイヤルを回して照明の点灯時間を設定します。
OFF、５秒、ON（常時点灯）から選択します。

ディスプレイ照明を常時点灯させると電池の消耗が早くなります。

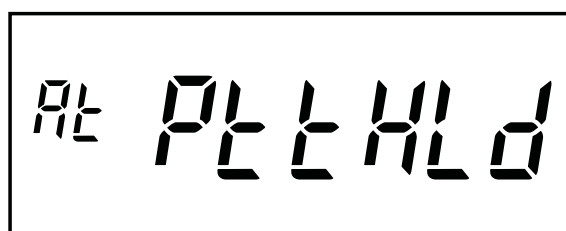
･･････PTT ホールド･･････

[PTT] キーを一度押すと送信を継続する機能です。もう一度押すと受信待ち受けに戻ります。
本機能を使用すると [PTT] キーを押し続ける必要がなくなります。
初期状態では AUTO に設定されています。

モード１交互通話、モード３中継子機では OFF、モード２同時通話 PTT タイプでは ON に設定されています。

交互、交互中継通話でPTTキーの機械的なロックが無いマイクやヘッドセットを使うときはONにします。

❶ PTT ホールドの設定をする

セットモードにして「PttHLd」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

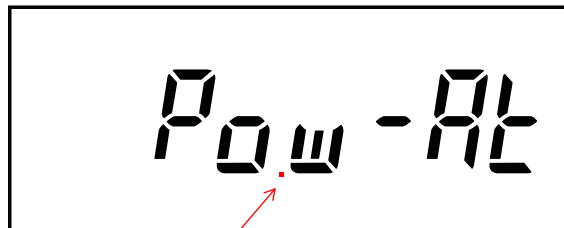
ダイヤルを回して At（AUTO）、ON、OFF から選択します。

・・・・・・送信出力・・・・・・

送信出力を変更する機能です。初期状態では AUTO に設定されています。
モード 2 などの同時通話ビジネスチャンネル（b12 ～ b29）選択時には自動的に Lo パワー（1mW）になり、3 分制限のない連続通話ができます。その他の通話モードでは Hi パワー（10mW）に設定されています。

❶ 送信出力の設定をする

セットモードにして「Pow」を選択します。

Pow-At

❷ 送信出力を切り替える

ダイヤルを回して送信出力を At、Hi、Lo から選択します。
Lo 設定時にはチャンネル表示部に「.（ドット）」が点灯します。

注意 Hi（10mW）に設定すると交互通話、同時通話におけるすべてのチャンネルの通話時間は 3 分間に制限されます。

３分経過すると自動で２秒間停波、PTTが押されたままでチャンネルが空いていれば、そのまま自動で再送信します。

・・・・・・VOX・・・・・・

[PTT] キーを押さなくてもマイクに音声入力があると自動的に送信する機能です。初期状態では OFF に設定されています。

❶ VOX の設定をする

セットモードにして「vo」を選択します。

oFF vo

❷ VOX 感度を設定する。

ダイヤルを回して VOX 感度を OFF、Lo、Hi から選択します。
本機能を設定するとチャンネル表示の左横に「v」が点灯します。

メモ オプションのイヤホンマイクやヘッドセットでも VOX 運用ができます。

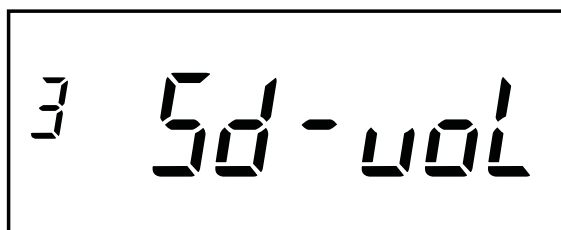
VOXは咳払いをしても送信する、頭切れが多い、うるさい場所では使えない、等の制限があります。

・・・・・・ 操作音量 ・・・・・・

本機から鳴るビープやガイダンスの音量を調整する機能です。初期状態では「3」に設定されています。

❶ 操作音量の設定をする

セットモードにして「Sd-voL」を選択します。

3 Sd-voL

❷ 音量を切り替える

ダイヤルを回して操作音量を０～５から選択します。数値が大きいほど音量は大きくなり「0」に設定するとすべてのビープやガイダンスは鳴らなくなります。

・・・・・・ サウンド ・・・・・・

サウンドを設定する機能です。初期状態ではビープに設定されています。

❶ サウンドの設定をする

セットモードにして「Sound」を選択します。

❷ 音を選択する

ダイヤルを回して音を OFF、bP（ビープ）、GdC（ガイダンス）、ALL（ビープ+ガイダンス）から選択します。

メモ　GdC（ガイダンス）または ALL（ビープ+ガイダンス）を選択した場合、設定内容や状態を音声でお知らせします。

・・・・・・ エンドピー ・・・・・・

[PTT] キーを離したときに「ピッ」音が鳴り送信が終わったことを相手にお知らせする機能です。初期状態では OFF に設定されています。

❶ エンドピーの設定をする

セットモードにして「EndP」を選択します。

❷ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

・・・・・・ コールバック ・・・・・・

自分が話した声をイヤホンから鳴らし話しやすくする機能です。
周りの騒音が大きいときに自分の声が聞こえることによって話しやすくなります。初期状態では OFF に設定されています。

❶ コールバックの設定をする

セットモードにして「CALLb」を選択します。

❶ ON/OFF を設定する

ダイヤルを回して ON/OFF を設定します。

5 付　録

本機の補足事項を記載しています。

・・・・ 各チャンネルの送受信周波数 ・・・・

■ レジャーチャンネル

L01	422.2000MHz
L02	422.2125MHz
L03	422.2250MHz
L04	422.2375MHz
L05	422.2500MHz
L06	422.2625MHz
L07	422.2750MHz
L08	422.2875MHz
L09	422.3000MHz

	B	A
L10	421.8125MHz	440.2625MHz
L11	421.8250MHz	440.2750MHz
L12	421.8375MHz	440.2875MHz
L13	421.8500MHz	440.3000MHz
L14	421.8625MHz	440.3125MHz
L15	421.8750MHz	440.3250MHz
L16	421.8875MHz	440.3375MHz
L17	421.9000MHz	440.3500MHz
L18	421.9125MHz	440.3625MHz

メモ　複信、半複信モードでの周波数帯について…
A選択時:440MHz側を送信します。
B選択時:421MHz側を送信します。

■ ビジネスチャンネル

b01	422.0500MHz
b02	422.0625MHz
b03	422.0750MHz
b04	422.0875MHz
b05	422.1000MHz
b06	422.1125MHz
b07	422.1250MHz
b08	422.1375MHz
b09	422.1500MHz
b10	422.1625MHz
b11	422.1750MHz

	B	A
b12	421.5750MHz	440.0250MHz
b13	421.5875MHz	440.0375MHz
b14	421.6000MHz	440.0500MHz
b15	421.6125MHz	440.0625MHz
b16	421.6250MHz	440.0750MHz
b17	421.6375MHz	440.0875MHz
b18	421.6500MHz	440.1000MHz
b19	421.6625MHz	440.1125MHz
b20	421.6750MHz	440.1250MHz
b21	421.6875MHz	440.1375MHz
b22	421.7000MHz	440.1500MHz
b23	421.7125MHz	440.1625MHz
b24	421.7250MHz	440.1750MHz
b25	421.7375MHz	440.1875MHz
b26	421.7500MHz	440.2000MHz
b27	421.7625MHz	440.2125MHz
b28	421.7750MHz	440.2250MHz
b29	421.7875MHz	440.2375MHz

・・・トーン周波数一覧（グループ番号）・・・

番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数
01	67.0Hz	16	114.8Hz	31	192.8Hz	46	196.6Hz
02	71.9Hz	17	118.8Hz	32	203.5Hz	47	199.5Hz
03	74.4Hz	18	123.0Hz	33	210.7Hz	48	206.5Hz
04	77.0Hz	19	127.3Hz	34	218.1Hz	49	229.1Hz
05	79.7Hz	20	131.8Hz	35	225.7Hz	50	254.1Hz
06	82.5Hz	21	136.5Hz	36	233.6Hz		
07	85.4Hz	22	141.3Hz	37	241.8Hz		
08	88.5Hz	23	146.2Hz	38	250.3Hz		
09	91.5Hz	24	151.4Hz	39	69.3Hz		
10	94.8Hz	25	156.7Hz	40	159.8Hz		
11	97.4Hz	26	162.2Hz	41	165.5Hz		
12	100.0Hz	27	167.9Hz	42	171.3Hz		
13	103.5Hz	28	173.8Hz	43	177.3Hz		
14	107.2Hz	29	179.9Hz	44	183.5Hz		
15	110.9Hz	30	186.2Hz	45	189.9Hz		

・・・・・・・・・・・オプション一覧・・・・・・・・・・・

EBP-60	リチウムイオンバッテリーパック
EDC-122	AC アダプター
EDC-131	シングル充電スタンド
EDC-131A	シングル充電器セット（AC アダプター付属）
EDC-167A	ツイン充電器セット（AC アダプター付属）
EDC-167R	ツイン連結スタンド
EDC-162	連結用 AC アダプター
EME-58	ストレートコードイヤホン　耳かけ型
EME-32A	イヤホンマイク　カナル型
EME-48A	イヤホンマイク　耳かけ型
EME-62A	咽喉イヤホンマイク　カナル型
EME-63A	ヘルメット用ヘッドセット
EME-64A	ヘッドセット
EME-36A	イヤホンマイク　カナル型
EME-59A	イヤホンマイク　耳かけ型
EME-65A	イヤホンマイク　耳かけ型
EMS-62	スピーカーマイク　IP54 相当※
EMS-71	スピーカーマイク　IP67 相当※
EDH-33	シガーケーブル
EDS-14	プラグ変換ケーブル
ESC-62	ソフトケース
EBC-43	ベルトクリップ（ネジ 2 本）
ADUA-97	中継ケーブル

※スピーカーマイクはモード 2 やモード 4 の同時通話ではハウリングが発生するためご使用になれません。交互通話において PTT ホールド、VOX、コールバックの各機能はご使用になれません。

・・・・・・故障とお考えになる前に・・・・・・

本機が故障かなと思ったら、まずこちらをお読みください。

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。 充電池を充電してください。
音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れ過ぎている。	通信距離を目安に通信してください。
	グループ番号が違う。	グループ番号を合わせてください。
	[PTT] キーが押されている。	[PTT] キーを離してください。
「ザー」という 雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信制限時間を超過している。	[PTT] キーを離し 2 秒たってから送信してください。
	PTT オフ機能が働いている。	セットモードで PTT オフ機能を ON にしてください。
電池の消耗が早い。	バッテリーセーブ機能が OFF になっている。	セットモードでバッテリーセーブ機能を ON にしてください。
	ランプ常灯機能が ON になっている。	セットモードでランプ常灯機能を OFF にするか、5 秒に設定してください。
キー操作できない。 チャンネルが変わらない。	キーロックされている。	キーロックを解除してください。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを拭き取ってください。
	バッテリーが専用品でない。	バッテリーパック EBP-60 をご使用ください。

- 処置を施しても異常が続くときはリセット（初期化）してください。症状が回復する場合があります。
- キー操作を受け付けなくなったときは電池を入れ直すと症状が回復する場合があります。
- 電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換してください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も５年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

・・・・・・・・・・ 定格 DJ-R200D ・・・・・・・・・・

項目	内容
送受信周波数	421.5750 ～ 421.7875MHz、421.8125 ～ 421.9125MHz
	422.0500 ～ 422.1750MHz、422.2000 ～ 422.3000MHz
	440.0250 ～ 440.2375MHz、440.2625 ～ 440.3625MHz
周波数制御チャンネル	421.8000MHz、440.2500MHz
電波形式	F3E（FM）、F1D（FSK）
送信出力	10mW、1mW
受信感度	-14dBu 以下（12dB　SINAD）
音声出力	本体スピーカー 400mW 以上、外部出力 80mW 以上
通信方式	単信、半複信、複信
定格電圧	DC3V ～ 3.7V
外部電源端子	DC5V ～ 6V　EIAJ 区分 2
消費電流	送信時：約 70mA（10mW）、約 65mA（1mW）
	受信定格出力時（50mW）：本体　約 160mA、外部　約 130mA
	受信待ち受け時：約 70mA
	バッテリーセーブ時：約 20mA
動作温度範囲	-10℃～ +50℃（但し充電は 0℃～ +40℃）
寸法	高さ 98.8mm ×幅 55.0mm ×厚さ 29.3mm（最薄部 24.0mm）突起物除く
	アンテナ長　L：163.5mm　S：36.0mm
重さ	L：122g　S：114g（ベルトクリップ、電池含まず）

- 仕様、定格は予告なく変更する場合があります。
- 本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。

よくあるご質問（弊社HPのFAQコーナー）：
http://www.alinco.co.jp/division/electron/faq.html

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東 京 支 店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
大 阪 支 店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／ 10:00～17:00 月曜～金曜（祝祭日及び 12:00～13:00 は除きます）
ホームページ http://www.alinco.co.jp/「電子事業」をご覧ください。

PS0879
FNEJ-NK

DJ-R200D　拡張版 取扱説明書

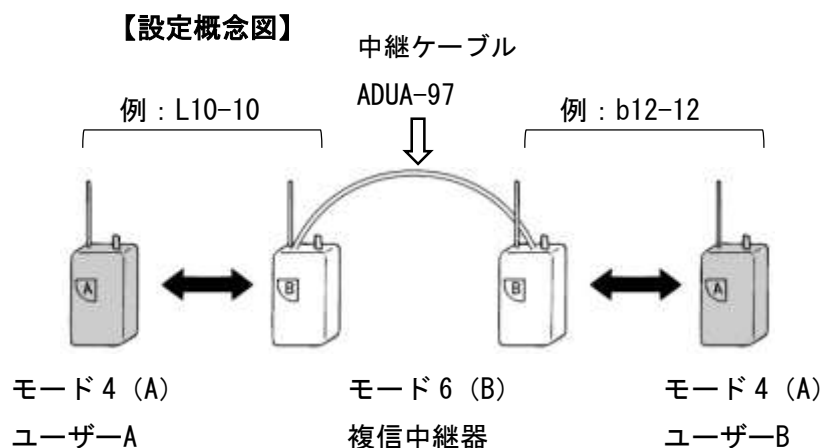
DJ-R200D 特定小電力トランシーバーは多彩な機能を搭載しています。
本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない「通話モード」「セットモード」「拡張セットモード」の詳細について説明します。

1）通話モード

モード番号	通話方式	使用可能チャンネル	ページ
4	複信中継子機（PTT タイプ）	L10～18、b12～29	P.1～P.4
	複信中継子機（電話タイプ）	L10～18、b12～29	P.1～P.4
6	複信（連結）中継器	L10～18、b12～29	P.1～P.4
8	半複信連結中継子機	L10～18、b12～29	P.4～P.5
12	中継器リモコン	L10～18、b12～29	P.5～P.6
13	ショックセンサー（衝撃検知）	L01～09、b01～11	P.6～P.7
	ショックセンサー（傾き検知）	L10～18、b12～29	
14	交互通話　TOP 短縮モード	A～H	P.7～P.8
15	同時通話　TOP 短縮モード	A～H	P.8

モード 1、2、3、5、9 については製品に付属の取扱説明書をご参照ください。
他機種で採用しているモード 7（ケアモニター）、10（クロス TSQ）、11（ビーコン）は搭載していません。

モード 4：複信中継子機（PTT タイプ）
モード 6：複信（連結）中継器

直接では電波が届かない場所にいる相手と、中継器を介して同時通話をするモードです。
同時通話の方式には「PTT　タイプ」と「電話タイプ」があります。初期状態は旧モデルで「強制モード」と呼んでいた PTT タイプです。
・PTT タイプ：[PTT] キーを押して送信します。（双方が好きなタイミングで送信できます。）
・電話タイプ：電話のように呼び出し音に応答する手順で通話をおこないます。

【設定上の注意】

・ モード 6 複信中継器に設定した本機 2 台をオプションの中継ケーブル ADUA-97 で接続します。
モード 6 への設定方法は後述します。

・ 設定概念図のように、ユーザーA と B は異なるチャンネルとグループ番号に設定してください。
同じチャンネルに設定すると干渉して正しく動作しません。概念図は単なる例で、運用現場の電波環境によって安定して動作するチャンネル、グループ番号を探し、十分に動作確認をしてください。それぞれ近接するより大きく離れた番号のほうが原則的に干渉しにくくなります。

・ 周波数帯設定は子機を A に設定した場合は、中継器を B に設定してください。子機を B にしたら中継器は A です。どちらを A にしたほうが良く飛ぶ、ということはありません。単純に設定の問題です。

・ 同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）を使わないとハウリングが発生して通話できません。本機はねじ込み式のジャックを採用しています。プラグは止まるまで手でしっかりねじ込んでください。但しペンチなど工具を使って無理に締め付けすぎると壊れます。

【子機の設定 / モード４ PTT】

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。

＊ダイヤルを回してモード 4 に設定します。4A とチャンネル、グループ番号が表示されます。
[PTT]キーを押して確定します。
＊ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
＊ダイヤルを 2 回押すとグループ番号が点滅します。点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。
＊［PTT］キーを押すと設定が終わります。
＊ 必要があれば、周波数帯 4A を 4b に切り替えます。［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［フック（A/B)］キーを押すごとに A と b が切り替わります。

【PTT モードの呼び出し方】<u>※先に、次のページで説明する中継器の設定をしてください。</u>

本機に接続した外部マイクの［PTT］キーを押します。送 が点灯します。
外部マイクに向かって話します。[PTT]キーを放せば、交互通話のように通話できます。
同時通話をするには別のユーザーも[PTT]キーを押します。同時通話状態になると 送 受 が点灯します。
＊通話を終了するときは外部マイクの［PTT］キーを押します。送信が停止し 送 が消灯します。
本機の同時通話時の初期設定では、一度 PTT を押すと次にもう一度押すまで送信状態を維持する PTT ホールド機能が有効になっていますが、これをセットモードでオフにして、イヤホンマイクの機構的なキーロックを使うなど、カスタマイズもできます。
＊電波が途切れても送信を続けます。電波状態が回復すると自動的に通話できるようになります。
＊送信状態で電源を切っても、次に電源を入れると自動的に送信状態で起動します。故障の原因にはなりません。

【子機の設定 / モード４ 電話】

電話のようにプルプル音で呼び出してから通話します。
PTT モードと同じ操作をして、グループ番号まで設定します。
＊［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［フック（A/B)］キーを約 2 秒間押します。
 が点灯します。

【電話モードの呼び出し方】<u>**※先に、後述する中継器の設定をしてください。**</u>

呼び出す人が外部マイクの［PTT］キーを押します。送 が点灯して、10 秒間呼び出し音が鳴ります。この間に、相手からの返事を待ちます。呼び出す人は音が鳴っている間に外部マイクの［PTT］キーを押します。<u>最初に PTT キーを押した人と同時通話</u>になり、送受 が点灯します。外部マイクに向かって話します。（発呼する人は、応答する人をあらかじめ指定することはできません。）

通話を終了するときは外部マイクの［PTT］キーを押します。

送信が停止し 送 が消灯します。

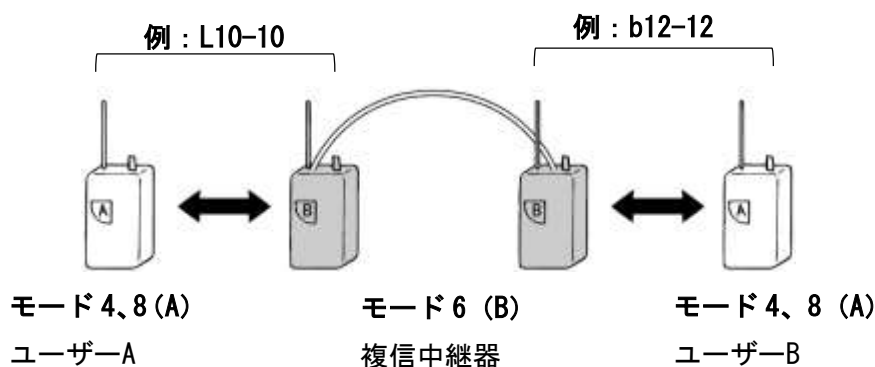
＊電波が途切れたら通話は終わります。改めて呼出し手順をします。

【中継器の設定 / モード６】

・<u>**奇数組の場合**</u>

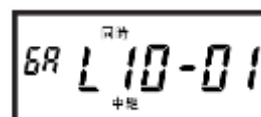
下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。

中継ケーブルは別売の ADUA-97 をお求めください。

【設定概念図】

・<u>**偶数組の場合**</u>

下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。

【設定】

＊［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 6 に設定します。[PTT]キーを押してモードを確定します。

*ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
*ダイヤルを2回押すとグループ番号が点滅します。
点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。[PTT] キーを押して確定します。
*必要なら[ファンクション] キーを押し、F 点灯中に [フック (A/B)] キーを押して A/B を変更します。

概念図を参考に、中継ケーブルで接続している中継器どうしはチャンネルとグループ番号を異なる設定にし、周波数帯は同じにします。隣接する子機および中継器はチャンネル、グループ番号は同じに、周波数帯 A/B は逆に設定します。

<u>モード8：半複信連結中継子機</u>

（中継器設定は前述のモード６）

直接では電波が届かない場所にいる相手と、モード 6 複信中継器を介してモード 1 のように交互通話ができる子機にする設定です。

下記イラストを参考にチャンネル、グループ番号、周波数帯を設定してください。
ユーザーA/B は異なるチャンネルとグループ番号に設定します。同じチャンネルに設定すると干渉して正しく動作しません。安定して動作するチャンネル、グループ番号を探して、あらかじめ動作確認をおこなってください。

【設定概念図】

中継ケーブル

ADUA-97、または自作ケーブル（本書巻末を参照）

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。モード番号が点滅します。
ダイヤルを回してモード8に設定します。[PTT] キーを押して確定します。

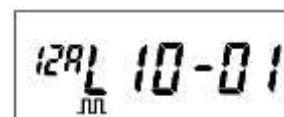
＊ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
＊ダイヤルを2回押すとグループ番号が点滅します。
点滅中にダイヤルを回してグループ番号を設定します。[PTT] キーを押して設定を完了します。
＊必要なら［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［フック（A/B)］キーを押して周波数帯を変更します。周波数帯は中継器と逆に設定し中継器が B なら子機を A、中継器が A なら子機を B とします。

【モード８の呼び出し方】
本機または外部マイクの［PTT］キーを押して、一呼吸おいてからマイクに向かって話します。
もう一方は相手の送信が終わったら、[PTT］キーを押して、一呼吸おいてから送信します。
原理上、相手に音声が届くまでに直接の通話より時間が掛かるので、急いで話すと頭切れを起こすことがあります。交互通話なので、外部マイクを接続しなくてもお使いになれます。

<u>モード 12：中継器リモコン</u>

本機をリモコンとして、対応する中継器のチャンネルなどを遠隔設定する機能です。
（本書編集時点では DJ-P101R、DJ-P111R、DJ-P112R、モード５の DJ-R200D）

＊［ファンクション］キーを押し 点灯中に［モード］キーを押します。モード番号が点滅している間にダイヤルを回して 12 に設定します。[PTT］キーを押して確定します。 が点滅します。

＊ダイヤルを回し中継器に転送するチャンネルを選択します。
＊グループトーク機能を設定するには［グループ］キーを押します。グループ番号が表示されたらダイヤルを押し、グループ番号が点滅中にダイヤルを回します。
グループ番号は「01～50」「tH（トーンスルー）」が選択できます。

トーンスルー機能とは同じチャンネルに設定している複数のグループが、別々のグループ番号を使って 1 台の中継器を共有できる機能です。本機能で使える子機のグループ番号は「32～38 番」「48～50 番」の 10 通りです。チャンネルやグループ番号は中継器と子機で同じに合わせます。

＊［PTT］キーを押すか無操作状態が 5 秒経過すると確定します。
＊　中継器が送受信する周波数帯を設定するには［ファンクション］キーを押し 点灯中に［フック（A/B)］キーを押して A/B いずれかを選択しますが、通常は A のままで変える必要はありません。リモコン側が A ならば中継器は自動的に B に設定されます。

・その他の設定
必要に応じてその他の機能を設定します。セットモードで自動接続手順、ハングアップタイマー、アラーム機能の設定ができます。（これらの機能については中継器の取扱説明書をご参照ください。）

＊［ファンクション］キーを押し 点灯中にダイヤルを押します。→「on　Auto」が表示されます。
ダイヤルを押すごとに項目が「on　Auto」→「0　HunGuP」→「oFF　ALm」と表示されます。
ダイヤルを回して ON/OFF や設定値を選択します。[PTT］キーを押して設定を完了します。

<u>・「on　Auto」自動接続手順の設定</u>

初期状態では ON に設定されています。通常は ON でお使いください。
中継器の本機能を OFF にする場合には子機の AUTO 設定も OFF または ON2 としてください。

・「0　HunGuP」ハングアップタイマーの設定

初期状態では 0（OFF）に設定されています。0 秒/0.5 秒/1 秒/2 秒から選択します。

子機からの信号がなくなったあとも設定した秒数だけ中継動作を継続します。

・「oFF　ALm」の設定

初期状態では OFF に設定されています。ON にすると中継動作の終了をビープ音でお知らせします。

【設定の転送】

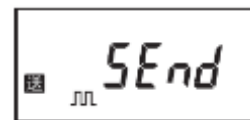
・DJ-R200DL を中継器に使うときは、中継器にする個体だけ、後述の拡張セットモード（P.12）No.57 中継リモコン受信［oFF rEmC-r]の項目を on にします。

（ファンクションキーを押した後でダイヤルを押し、CH-uoL が表示されたらフックキーを押す。oFF rEmC-r が出たらダイヤルを回して on を選び、PTT を押す。）

・転送する前に、中継器側の AC アダプターのコンセントを抜いて電源を切っておきます。DJ-R200D の場合は電源スイッチで電源を切ることもできます。

＊モード 12 で設定を済ませたら、［PTT］キーを約 2 秒間押します。

→「ピピ」と鳴って中継器へのデータ転送が始まります。

→「SEnd」と「 ⎍⎍ 」が点滅します。中継器が応答するまで設定内容が自動送信されます。

＊送信が始まったら AC アダプターをコンセントに挿すか、電源スイッチを入れます。60 秒たつと自動的にデータ送信が止まるので、速やかに行ってください。

→転送が終わると本機に「〇〇〇〇〇〇」が表示され「プルル」音が鳴ります。

中継器は自動的に再起動しますが、その後約 20 秒間は初期化のため使えません。

しばらく待ってからモード 3 の子機でアクセスして、正常動作を確認してください。

モード 13：ショックセンサー

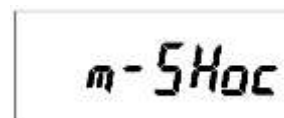
ご注意：センサー機能は業務レベルの精度を保証していません。個体によるばらつきもあります。センサーが動作しなかったことで発生する逸失利益は補償できません。

本機は簡易的な防犯アラームや、使用者の転倒検知に応用できるセンサーを内蔵しています。

衝撃や傾きを検知すると相手にアラーム音や音声ガイダンスでお知らせします。

モード 1 の交互通話とモード 3 の交互通話中継でお使いになれます。

［ファンクション］キーを押しF点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅するのでダイヤルを回してモード13に設定します。
［PTT］キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。
＊必要に応じてグループトーク機能を設定します。［グループ］キーを押し、グループ番号が表示されたらダイヤルを2回押して、番号が点滅中にダイヤルを回して設定、［PTT］キーを押して確定します。
（無操作状態が5秒経過しても確定します。）
＊ダイヤルを3回押すと「m-SHoc（衝撃検知）」が表示されます。
ダイヤルを回して「m-SHoc（衝撃検知）」または「m-tilt（傾き検知）」を選択してください。

・衝撃検知「m-SHoc」

本機が静止状態から突発的な衝撃を受けた時、同じチャンネル、グループ番号に設定した相手へ異常が発生したことをアラーム音や音声ガイダンスでお知らせします。反応させるための衝撃の感度は拡張セットモード No.55 衝撃検知モード衝撃感度で調整することができます。（設定範囲：1～9）

１が最も小さな衝撃（本機を動かす、軽く小突くなど）で反応するようになり、９では逆にユーザーが転倒する、本機を強めに振るなど強い衝撃でないと反応しなくなります。

ご注意：条件はあくまで目安で、持ち方や衝撃のかけ方によって反応のしかたが変わる場合があります。
実用前に十分テストをして、動作を確認してください。

・傾き検知「m-tilt」

本機が地面に対して垂直に立った状態から前後左右いずれかの方向に傾き、その状態が一定時間続いたら、同じチャンネル、グループ番号に設定した相手へ異常が発生したことをアラーム音や音声ガイダンスでお知らせします。反応させるための検知時間は拡張セットモード No.56 傾き検知モード反応時間で調整することができます。（設定範囲：5～60秒）

一度お知らせした後で、本機が地面に対して垂直に戻ると再び傾き検知ができる状態に戻ります。

ご注意：実用前に十分テストをして、動作を確認してください。

お知らせするアラーム音や音声ガイダンスについては、拡張セットモード No.52 通報音設定で選択することができます。

モード14：交互通話の10mW 疑似連続送信　（タイムアウトペナルティ TOP短縮モード）

特定小電力トランシーバーには、送信出力10mWで使うとき、3分間連続で送信すると自動的に受信に戻り、そのあと２秒以上経たないと再送信できない、規格上の「タイムアウト」制限の決まりがあります。モード14では、あらかじめプログラムされた2つのチャンネルを、3分制限に達する直前に自動で切り替えて、通常2秒間のタイムアウトペナルティ時間を約0.5秒に短縮して送信を継続します。これを繰り返すことで、疑似的なハイパワー連続送信ができます。
移動した先のチャンネルが別のユーザーに使われていないか確認する「キャリアセンス」をするので、この約 0.5 秒の休止時間が発生します。移動した側のチャンネルが使われていれば疑似連続送信にならないこともあります。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 14 を選び、[PTT］キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回して、全ユーザーが同じチャンネルに合わせます。
チャンネルは A~H の 8 通りがあり、チャンネル番号とグループ番号は予めセットされています。
＊［PTT］キーを押すと送信が始まります。交互通話の要領で通話します。

モード 15：同時通話の 10mW 疑似連続通話 （タイムアウトペナルティ TOP 短縮モード）

モード１４同様の機能で、同時通話向けの設定です。

モード 15 の同時通話では必ずオプションの外部マイク（ヘッドセットやイヤホンマイク）が必要です。外部マイクを使用しないと原理上ハウリングが発生します。

［ファンクション］キーを押し F 点灯中に［モード］キーを押します。
モード番号が点滅します。ダイヤルを回してモード 15 に設定、[PTT］キーを押して確定します。

＊ダイヤルを回して A~H の 8 通りから１つチャンネルを選びます。チャンネル番号とグループ番号は予めセットされています。

外部マイクの［PTT］キーを押して送信します。[PTT］キーは一度押して送信、もう一度押して受信待ち受けになります。信号を受信したら外部マイクの［PTT］キーを押して応答します。
双方が送信状態になれば同時通話ができます。双方がもう一度［PTT］キーを押すと通話が終わります。

※PTT キーの動作がこの通りでなければ、PTT ホールド機能を解除している、イヤホンマイク側の PTT ロックを使っている、などが考えられます。

移動した側のチャンネルが使われていれば疑似連続送信にならないこともあります。玉掛け作業など絶対に安定した連続通話が必要な時はご注意ください。

２）製品説明書で説明していない標準セットモード項目について

※ セットモード**No.1〜No.16**の設定については本機に付属している取扱説明書をご覧ください。

【セットモードの操作手順】［ファンクション］キーを押し F 点灯中にダイヤルを押します。
・ダイヤルを押すごとにセットモードの項目が切り替わります。
・［フック（A/B)］キーを押すと前項目に戻ります。
・ダイヤルを回して設定値を選択し［PTT］キーを押して設定を完了します。
・No.14 サウンドで「Gdc」「ALL」を選択していると、各セットモードの番号を音声でお知らせします。

※押す回数､はセットモードに入って CH-uoL 表示からダイヤルを押し下げる回数です。

No.	**メニュー**	**表示**	**選択項目**	**初期値**	**※押す回数**
1	CH/VOL リバース	CH-voL	CH-voL/voL-CH	CH-voL	-
2	コンパンダー	oFF ComPnd	on/oFF	oFF	**1**
3	秘話	oFF ScrbLE	on/oFF	oFF	**2**
4	ループ（第三者受信）	oFF AFLooP	on/oFF	oFF	**3**
5	着信バイブレーター	oFF vib	oFF/A10/b10/A20/b20	oFF	**4**
6	ベル	oFF bEEL	on/oFF	oFF	**5**
7	バッテリーセーブ	on1 bS	oFF/on1/on2/Eco	on1	**6**
8	オートパワーオフ	oFF APo	oFF/30/60/90/120	oFF	**7**
9	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5	**8**
10	PTT ホールド	At PttHLd	At/oFF/on	At	**9**
11	送信出力	Pow-At	At/Hi/Lo	At	**10**
12	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF	**11**
13	操作音量	3 Sd-voL	0〜5	3	**12**
14	サウンド	bp Sound	oFF/bp/Gdc/ALL	bp	**13**
15	エンドピー	oFF EndP	on/oFF	oFF	**14**
16	コールバック	oFF CALLb	on/oFF	oFF	**15**
17	ディスプレイ表示	modE	modE/SmEtEr/Cntdn/FrEq	modE	**16**
18	スケルチレベル	SqL 3	0〜5	3	**17**
19	キーロック時間	Loc 2	1〜3	2	**18**
20	メモリー表示	numbEr	numbEr/mode/no-mode	numbEr	**19**
21	音色変更	1 mELody	1〜3	1	**20**
22	中継アラーム	oFF ALm	on/oFF	oFF	**21**
23	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0	**22**
24	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2	**23**
25	中継バッテリーセーブ	oFF m5-bS	on/oFF	oFF	**24**
26	電池電圧参照	○○ ○.○○	-	-	**25**
27	PTT オフ	on Ptt	on/oFF	on	**26**
28	LCD 消灯	on Lcd	on/oFF	on	**27**
29	外部音量変更	EvoL-H	L/H	H	**28**
30	イヤホン断線検知	on EAr-C	on/oFF	on	**29**

No.17　ディスプレイ表示　modE

ディスプレイのモード番号表示部に、モード番号以外のその他の情報を表示させることができます。

modE：通話モード番号を表示

SmEtEr：S/RF メーター表示　（縦棒で表示）

Cntdn：通話残り時間表示、１８０から１秒単位。３分タイムアウト計測用。

FrEq：チャンネル番号の代わりに周波数を MHz 単位で表示。422.200=422.200MHz

No.18　スケルチレベル　SqL 3

スケルチのレベルを 0～5 の範囲で調整します。待ち受け時に鳴る「ザー」という雑音を消す機能で、ゼロで開放（ザーが鳴りっぱなし）です。ザーが鳴らなくなった数字の１つ上あたりに設定します。大きくし過ぎるとノイズでスケルチが開くことが減る分、弱い信号は聞こえなくなります。電波環境でレベルが変わることがあるので微調整できるようになっています。

No.19　キーロック時間　Loc 2

キーロックするときのキーを押し続ける時間を設定します。時間を長くすればキーロック設定の誤操作が少なくなります。

No.20　メモリー表示　numbEr

メモリーチャンネル運用時の表示方法を変更する機能です。

number：メモリーチャンネル番号表示

mode：モード番号表示

no-mode：メモリーチャンネル番号とモードの同時表示

No.21　音色変更　1 mELody

モード 2、モード 4 の同時通話電話タイプの呼び出し音、着信音、ベル機能の音色が変えられます。

モニターボタンを押すと音色が確認できます。

No.22　中継アラーム　oFF ALm

モード 5 半複信中継器で中継動作の終了をアラーム音でお知らせします。アラーム音が鳴っている間に信号を受信すると中継動作を継続します。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、通話がスムーズに感じられる反面、音が煩わしく感じられることもあり、実験してから設定してください。

No.23　中継ハングアップ　0 HunGuP

モード 5 半複信中継器で受信信号が途切れても一定時間送信を継続する機能です。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、スムーズに感じられることがあります。好みも有るので、実験してから設定してください。

No.24　中継自動接続手順　on2 Auto

モード 3 半複信中継子機、モード 5 半複信中継器の中継動作自動接続手順（Auto Kerchunk）を解除する機能です。接続タイミングの異なる旧製品や他社製中継器へのアクセスに有効な場合があります。

通常は初期状態の「on2」でお使いください。

No.25　中継バッテリーセーブ　oFF m5-bS
モード 5 半複信中継器専用のバッテリーセーブ機能です。中継動作の反応が遅くなったり頭切れの原因になったりするので通常は初期値の OFF でお使いください。屋外の現場で仮設使用するなど、電池の消費を極力抑えたいときだけ ON 設定をお試しください。

No.26　電池電圧参照　t3 または Li-数字
電池のタイプと電圧を表示します。「t3」は単三形電池、「Li」はリチウムイオンバッテリーパックを示します。外部電源端子から電圧が供給されているときは「FULL」を示します。
表示は目安で、個体のばらつきもあります。電池が切れるときの数値を覚えておくと、より精度の高い減電池表示として使えます。

No.27　PTT オフ　on Ptt
本機を受信専用として使用する場合に送信を禁止する機能です。[PTT] キーを押しても送信しません。

※VOX、緊急通報、ショックセンサーモードでの通報については、OFF 設定は無効で、送信します。

No.28　LCD 消灯　on Lcd
送受信中にディスプレイ表示を消灯する機能です。液晶が発するノイズが原因で送受信音に雑音が入ることがあり、ON にするとノイズ対策に有効な場合があります。

No.29　外部音量変更　EvoL-H
外部出力端子へイヤホンなどを接続して使用する際、音量が大きい場合には L 設定にして全体的にボリュームを下げることができます。スピーカーマイクで大きな音を鳴らしたい時は H 設定にします。

No.30　イヤホン断線検知　on EAr-C
本機は起動時に自動的にイヤホン断線検知をおこないます。インピーダンスが高いなど、外部出力端子へ接続する機器によってはまれに断線検知が誤動作することもあり、OFF が選べるようになっています。

３）拡張セットモード

本機には、普段の使用には余り必要が無くても環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を拡張セットモードに持たせています。通常の設定項目にしなければならないほどには頻繁に使われない上、意味が分かってお使いいただかないと電池を早く消費したり、表示が変わったり、一部の機能が使用できなくなるなど「故障かな？」と思うような動作をするので、拡張操作をしないと使えないようにしています。内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法も敢えてこの説明書の最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモード項目の後ろに続けて表示されます。

ユーザーが誤って管理者設定を変更するリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、完全リセットをしないと初期化されないようになっています。

No.	メニュー	初期表示	選択項目	初期値
31	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4
32	デュアルオペレーション再開時間	5 duAL-t	1～5(秒)	5
33	別売アクセサリーの PTT 対応	ALL inSptt	oFF/out/ALL	ALL
34	緊急警報鳴動時間	10 EmG-t	10～60	10
35	秘話周波数	34 Scr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34
36	秘話エンファシス	on EmPHA	on/oFF	on
37	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF
38	グループトーク TSQ/DCS	ton GrouP	ton/Cd1/Cd2	ton
39	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1 秒）	10
40	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL
41	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2
42	AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL
43	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24（×-1dB、 3dB Step）	6
44	個別呼出　送受信	oFF SELCAL	on/oFF	oFF
45	個別呼出用マイグループ番号割当	00 my-GP	00～19	00
46	個別呼出用マイコード番号割当	00 my-Cd	00～99	00
47	通話圏内確認	oFF ArEA-C	on/oFF	oFF
48	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	on/oFF	on
49	周囲温度　注意喚起	oFF tmP	oFF/30c～60c（℃_温度しきい値）	oFF
50	フックキー割り当て	Hoo Hoobtn	Hoo/vLO/rEC	Hoo
51	レストア	oFF rESto	oFF/SAv/Lod/dEt	oFF
52	警報の通報方法　選択	EG rPt-Sd	oFF/EG/Sd/Cd	EG
53	減電池スリープ	on bt-SLP	on/oFF	on
54	中継器　他機種向けタイミング変更	50 m5-otH	0～100	50
55	衝撃検知モード 衝撃感度	1 Shoc-L	1～9	1
56	傾き検知モード 反応時間	5 tiLt	5～60(秒)	5
57	中継設定時のリモコン信号受信	oFF rEmC-r	on/oFF	oFF

No.31　マイクゲイン　4 m-GAin
通話時の癖やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする）、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できるようになっています。他社製のマイクをお使いになる時もレベル調整が必要になる場合があります。設定を間違うと声が小さくなったり歪んだりしますのでご注意ください。

No.32　デュアルオペレーション再開時間　5 duAL-t
デュアルオペレーションモードで通話が終わり、交互受信が再開するまでの時間を変更できます。通常は通話終了から 5 秒経過後に再開されますが、このタイミングを短くできます。

No.33　別売アクセサリーの PTT 対応　ALL inSptt
4 極プラグのオプションイヤホン、スピーカーマイク等を使うときに、本機 PTT と本機マイクの有効／無効を選べます。使用するアクセサリーに合わせて設定してください。

oFF　：本機 PTT 無効・本機マイク無効（オプションの PTT とマイクのみ有効）
out　：本機 PTT 有効・本機マイク無効（マイクは外部マイクのみ有効、PTT は両方が有効）
ALL　：本機 PTT 有効・本機マイク有効（イヤホンだけを使うときの設定）

※ out、ALL でスピーカーマイクを使うとき、本機 PTT を押しても送信できません。スピーカーマイクの PTT を押して送信してください。

No.34　緊急警報鳴動時間　10 EmG-t
通常は緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は 10 秒に設定されていますが、この時間を 10 秒単位（最大 60 秒）で変更できます。

No.35　秘話周波数　34 Scr-Fq
秘話のキャリア周波数を設定します。初期値と異なるキャリア周波数を使うときは、通話したいグループ全員の設定を同じ値に揃えて変更してください。

No.36　秘話エンファシス　on EmPHA
弊社の秘話搭載特定小電力トランシーバーや他メーカの秘話搭載特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって通話の相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えることによって改善される場合がありますのでお試しください。

No.37　減電池アラーム（アラーム間隔）oFF bAtt-C
電池の電圧が低下するとディスプレイ右上の電池マークが点滅し、減電池をお知らせします。このとき設定時間ごとに 1 回、電池が減っていることを音で知らせることができます。お知らせ音は設定や電池の種類によって異なります。電池が減っている状態で音を鳴らしてお知らせするため、間隔を短く設定するほど早く電池が切れてしまいます。

セットモード No.14 サウンドが「bp」の場合
→アラームで「ププッ」音が鳴ります

セットモード No.14 サウンドが「GdC」「ALL」で EBP-60 を入れている場合
→音声で「充電して下さい」が鳴ります

セットモード No.14 サウンドが「GdC」「ALL」で乾電池を入れている場合
→音声で「電池を交換して下さい」が鳴ります

No.38　グループトーク・モード（TSQ/DCS）　ton GrouP

本機のグループトーク機能は一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えを Cd1、Cd2 に設定し、通常のグループトークと同様に通常画面で GROUP キーを押すことで DCS 番号を設定できます。グループ番号の変更はトーンスケルチと同様、ダイヤルを 2 回押した後ダイヤルを回してください。Cd1、Cd2 設定によって変更できるグループのコード数と表示が選べます。

Cd1：01～83 の 83 通りのコード番号から選択（待ち受け時「_○○」とコード番号を表示）
Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択
（待ち受け時「_Cd」と表示され、変更時に「Cd_○○○」とコードを表示）

※同時通話、連結中継通話、連続通話、中継器リモコンでグループトーク設定を DCS にすることはできません。

No.39　VOX ディレイ時間 10 vod-t

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間、送信状態を保持するので息継ぎしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、息継ぎなどですぐ送信が落ちることもあり、実験して確かめてからお使いください。

No.40　チャンネル表示　AL CHdiSP

本機のチャンネルは L01～L09、b01～b11 と表示されます。noL に変更すると他社製無線機の 01～20 方式に変更することができます。

AL	noL
L01～L09	12～20
b01～b11	01～11
L10～L18（中継，同時）	19～27（中継，同時）
b12～b29（中継，同時）	01～18（中継，同時）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を noL または AL にしてください。

No.41　グループトーク判別精度　2 mG-ton

グループトークでのトーンの判定精度を調整することができます。同じグループトーク番号に設定しているのにスケルチが開かない、ノイズでトーンが乱される、など障害がある時に有効です。１が最も厳しく、５が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、後述の、初期設定では動作するテールノイズキャンセル機能が働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の２は、かなり正確なトーン判定をします。

No.42　 マイク AGC 切り替え　SL AGC

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他機種と混用する場合、相性問題を解決できることがありますが、下手に設定を変えると逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質確認してください。

No.43　 AGC ターゲットレベル調整　06 AGC-tG

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからお使いください。

No.44　個別呼び出し送受信　oFF SELCAL

通話開始時に呼出信号を送り、特定の相手（グループ）を選択して通話ができます。モード 1 でグループトーク機能設定（トーン、DCS）を切った状態で個別呼出設定を ON にしたときに待ち受け時に「SL」が表示されます。PTT を押したときに「ピッピッピッ・・・」の呼び出し音が鳴り、選択した相手を呼び出します。呼び出し音が止まると通話ができます。
待ち受け中にダイヤルを 2 回押しダイヤルを回して呼び出し相手を変更・選択できます。

SEL ALL：全員を呼び出します。
SEL Cod-〇〇（00～99）：特定の個体番号を呼び出します。
SEL GrP-〇〇（00～19）：特定の個別グループを呼び出します。

呼び出されたトランシーバーはベル音で着信を知らせ、呼び出しを行ったユーザーの個体番号を表示します。

メモ）個別呼出を使用する前に全ユーザーの個別呼出設定を ON にして、個体番号と個別グループ番号を設定してください。

No.45　個別呼び出し用マイグループ割り当て　00 my-GP

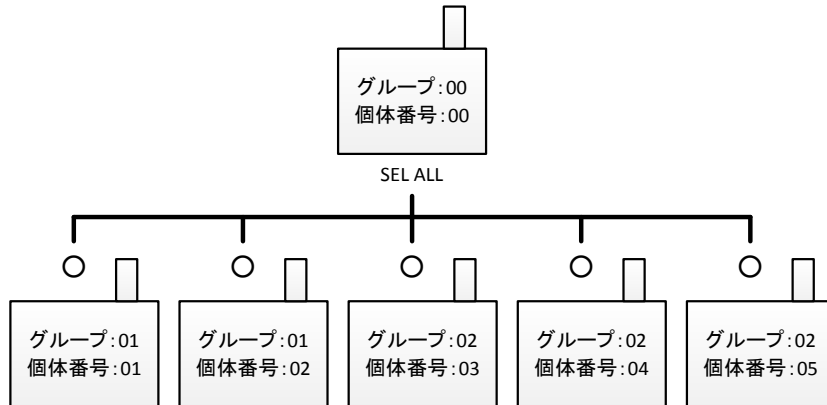
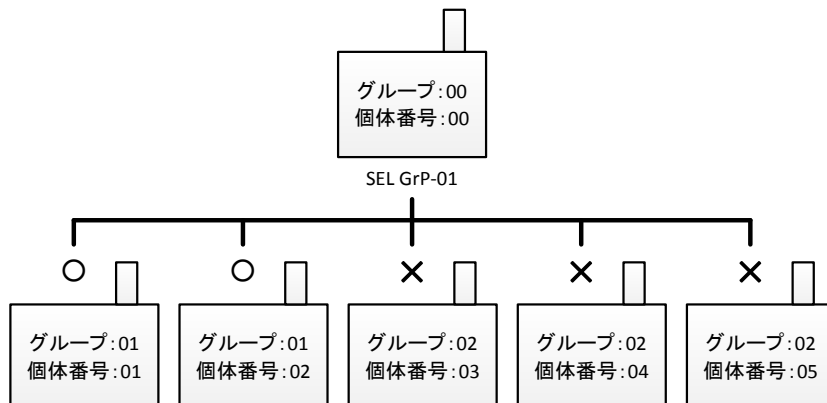
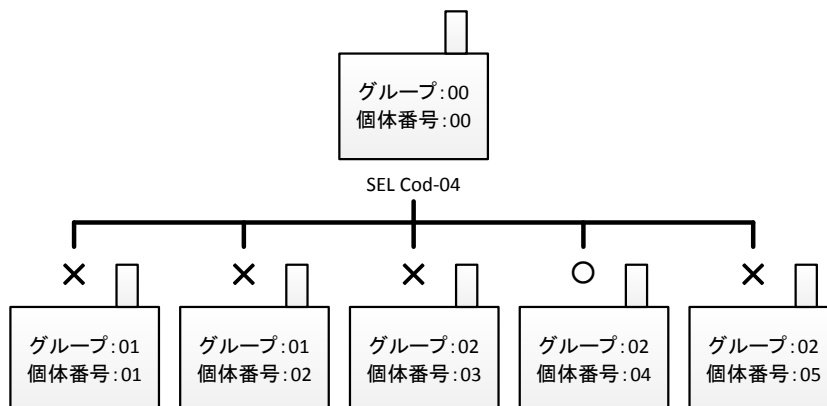
個別呼出でのグループ番号を割り当てます。グループ数は「00」～「19」の 20 組です。

No.46　個別呼び出し用マイコード割り当て　00 my-Cd

個別呼出に使う個体番号を割り当てます。「00」～「99」の 100 通りから選べます。

ここで割り当てたマイコードはセットモード No.52 通報音設定での個体番号にも適用されます。

個別呼出通話例：
下の表は、グループが００（一人だけ），０１（二人組），０２（三人組）の３つ、ユーザーが００から０５までの６台ある環境を表しています。グループ００、個体番号００は、下図では送信者を表します。

① 全員を呼び出す　＝　SEL ALL

② グループ０１の二人だけを呼び出す　＝　SEL GrP-01

③ 特定の個体（例：個体番号０４）だけを呼び出す　＝　SEL Cod-04

No.47　通話圏内確認　oFF ArEA-C

グループトーク中に相手との通話が可能かどうかの目安を表示することができます。モード 1 でグループトーク機能設定（トーン、DCS）を入れた状態で通話圏内確認設定を ON にしたとき、モード番号の右側に通信状態が表示されます。

「☰ 」点滅：圏内に通話できる相手が居るか、検索しています。
「C 」点灯：通話可能かどうか確認するための信号を送っています。

「☰ 」点灯：信号は強く良好な通話が可能。
「＝ 」点灯：信号は普通、おおむね良好な通話が可能。
「＿ 」点灯：通話が可能だが信号は弱く、途切れることがある。
「＿ 」点滅：相手が離れているか電源が切られているなどで、通話できない。

メモ）通話したいグループ全員の通話圏内確認を ON にして同じグループ番号にしてください。約 1 分毎に一瞬ですが通話が可能か確認をするので、そのタイミングが別のユーザーのチェック動作と重なると正しく判断できなくなります。これを防ぐため、この機能を使うときは電源を入れるタイミングを全員少しずつずらせてください。また、3 人以上のグループで使用する際は、圏内判定が正確に表示されない場合がありますが、この表示が実際の通話の距離や音質に影響することはありません。

No.48　テールノイズキャンセル　on tAiLnC

本機はグループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信状態から待ち受け状態になるときの「ザッ」というノイズ音）を除去するテールノイズキャンセル機能が入っています。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方で有効にしたときのみ動作します。
この機能が入っていないトランシーバーと通話するとき、この設定を変える必要はありませんがテールノイズは聞こえてしまいます。

No.49 周囲温度喚起　oFF tmP

本機には温度を検知するセンサーを内蔵しています。
設定温度を超えたとき「周囲温度が高くなっています、ご注意ください」と音声が鳴り、本機を使用している作業者への熱中症注意喚起などに応用することができます。温度設定については 30℃～60℃の範囲を 1℃ステップで設定することができます。
※あくまで目安です。精度保証はできず、誤動作による逸失利益の補償もできません。

No.50 フックキー割り当て　Hoo Hoobtn

本機の［フック（A/B)］キーは初期状態ではフリーチャンネルサーチ、同時通話モード電話タイプでの呼出・応答、デュアルオペレーションのサブチャンネル PTT に割り当てていますが、別の機能に変更できます。

vLO：受信音声ミュート

受信音声をミュート（消音）させたい場合に選びます。［フック（A/B)］キーを 1 回押すと受信音声が止まり、ダイヤル操作より手軽に受信音をミュートすることができます。ミュート状態を解除するには［フック（A/B)］キーをもう一度押すか、ダイヤル操作で音量を変更します。

rEC：受信音声録音

相手からの通話内容を音声メモとして残したい場合、受信音声を録音することができます。
受信中に［フック（A/B)］キーを2秒押し続けることで「rEC StArt」が点滅表示され録音が始まるので指を放します。録音時間は１件のみ、最長30秒で、新しく録音すると上書きされ、前の録音は消えます。信号が消えるか３０秒を超えると自動的に終了し、SAvE が表示されます。受信中に録音を止める場合はもう一度［フック（A/B)］キーを「rEC SAvE」が点滅表示されるまで長押しします。録音した音声を再生する場合は待ち受け状態で［フック（A/B)］キーを1回押します。録音した音声がない場合は「プーッ」とビープ音が鳴ります。録音した音声を消去する場合は［ファンクション］キーを押し、 点灯中に［フック（A/B)］キーを「rEC ErASE」が点滅表示されるまで、５秒ほど押し続けます。録音をデータとして取り出すことはできません。保存したいときはICレコーダーなど外付け機器を本機のイヤホンジャックに接続して、音声信号として録音してください。

No.51 レストア　oFF rESto

チャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報をリセットしても消えないように記憶させ、復元させる機能です。リセット後の面倒な設定やり直しをせずに済みます。

＊本体を記憶させたい状態に設定します。ダイヤルを回してSau/Lod/dEtを選びます。

SAv:［グループ]キーを2秒押し続けるとチャンネル情報、メモリー情報、セットモード情報が保存され「rSt writE」を表示します。新しい設定を記憶するときは、この操作を繰り返せば上書きできます。

Lod:［グループ]キーを2秒押し続けると保存した情報を復元します。復元が終わると「rSt rEAd」が表示され、自動的に再起動します。何も保存されていない場合、「rSt nodAtA」が表示され読み出しがキャンセルされます。

dEt:［グループ]キーを2秒押し続けると記憶させた情報を消去します。終わると「rSt ErASE」が表示されます。完全に工場出荷状態まで戻す時は、消去してからオールリセットしてください。

No.52 通報音　EG rPt-Sd

緊急通報とモード13 ショックセンサーモードの動作を選びます。

oFF　：通報しません。

EG　：通報時にアラーム音が鳴ります。

Sd　：通報時に「異常が発生しました」という音声が2回鳴ります。

Cd　：通報時に「〇番、異常が発生しました」という音声が2回鳴ります。

（〇＝拡張セットモード No.46 個別呼び出し用マイコードで割り当てた番号）

No.53 減電池スリープ　on bt-SLP

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると自動的に電源を切ります。それでも待機電流は発生しているので、バッテリーパックは取りだして保管してください。OFFにすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差はありません。通常はonでお使いください。

No.54 中継器他社製品互換　50 m5-otH

DJ-R200D を中継器として使うとき、旧製品や他社製品ではうまく中継動作をしない場合があります。アクセス手順のタイミングが原因の場合、この設定を変えると改善することがあります。すべての中継動作不良に有効な設定ではありません。通常セットモードのメニュー２４「中継接続自動手順」と合わせてお

試しください。初期設定以外のタイミングにすると、本機や弊社製の現行機種のアクセスが不安定になります。

No.55 衝撃検知モード 衝撃感度　1 Shoc-L

モード 13 ショックセンサーモード　衝撃検知（m-SHoc）の感度を設定することができます。
数字が低いほど小さな衝撃でも反応します。

No.56 傾き検知モード 反応時間　5 tiLt

モード 13 ショックセンサーモードの、傾き検知（m-tilt）から発報までの時間を設定します。単位は秒です。

No.57 中継器設定時にリモコン操作を受け付ける　oFF rEmC-r

ON 設定にすると、モード 5 の中継器モード時、別の対応トランシーバーを使ってチャンネルやトーン変更の遠隔操作（リモコン）ができます。リモコンの操作方法は本書 P.5～で前述しています。手が届きにくい場所に中継器として常設するときはこの設定を ON にして、リモコンで設定変更すると便利です。

［拡張セットモードへの切り替え］

１：キーロックを掛けます。（２つあるうちの、どちらの方法でも同じです。）
２：10 秒以内に[グループ]キーを５回連続で押します。キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープが鳴り、自動的にキーロックが解除されます。
３：セットモードに入ると拡張セットモードメニューが追加されています。
＊ 変更した値を保存して拡張セットモードメニューを隠すには、上記１～３の操作を繰り返します。
＊ チャンネルや通常のセットモードで設定したパラメータも含め、全てを工場出荷状態まで初期化するには、完全リセットを行ってください。

【完全リセット】

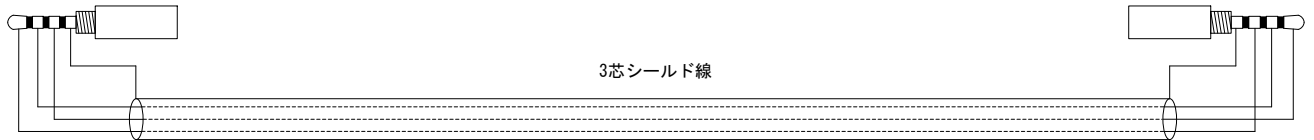
電源を切った後[ファンクション]キーとダイヤルを押した状態で電源を入れます。全てのセットモードの内容と登録済みのメモリーがリセットされ、工場出荷状態に戻ります。

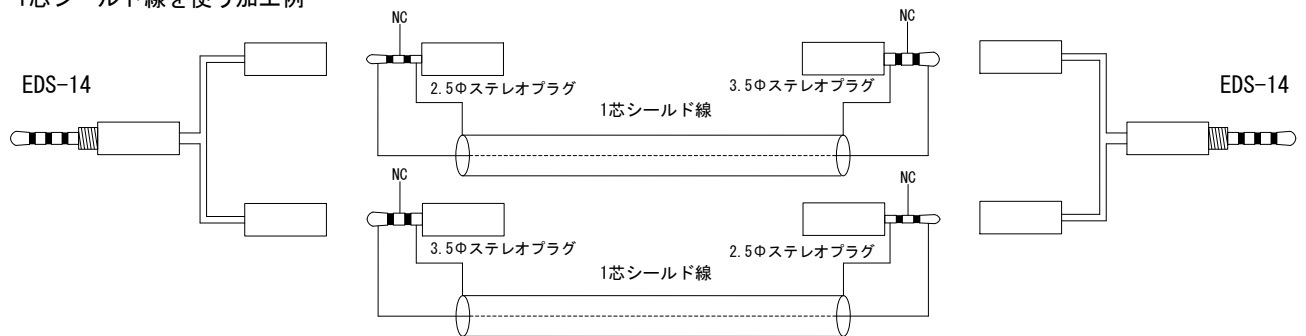
レストア機能を使ったときは、セットモード No.51 の rESto メニューで dEt 操作をしてデータを消去しないと完全な出荷状態になりません。

以上
アルインコ（株）電子事業部

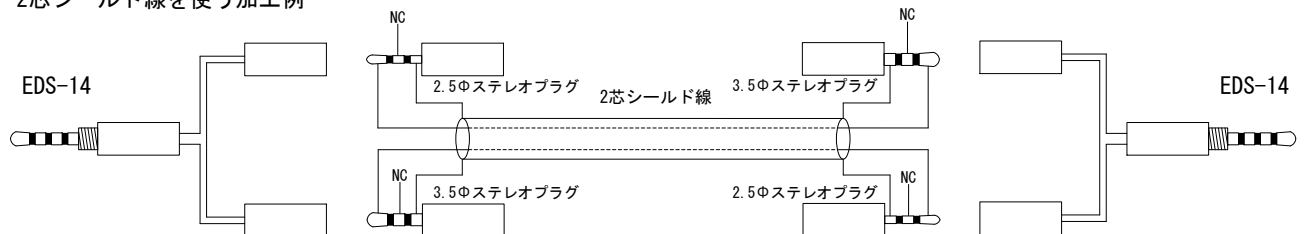
DJ-R200D　レピーターケーブル仕様書

この度は弊社 DJ-R200D 特定小電力トランシーバーをお買い求め頂き誠に有難う御座います。本機の連結中継機能（モード 6）をお使い頂く為の接続ケーブル（レピーターケーブル）について以下ご説明致します。

1：弊社オプションアクセサリー「ADUA-97」の配線図　（線長 1,000mm±50mm、プラグ・ブッシング部含まず）

2：ケーブルセットを自作される場合、弊社オプションアクセサリー「EDS-14」、市販のオーディオ機器用等に汎用されている太さ(2-3mm 径)の 1 芯シールド線、3.5Φステレオプラグ、2.5Φステレオプラグをお使い下さい。

1芯シールド線を使う加工例

（※NC = ケーブルに接続せず、空けたままにして下さい）

3：又、自作ケーブルセットの配線については 2 芯シールド線で自作することもできます。

2芯シールド線を使う加工例

ケーブル長は任意ですが、ケーブルの長くする又は細くすると減衰量が大きくなり使用できない場合が有ります。又、無線機の設置場所等の条件により動作の安定性、通信距離に変化が出る事が有ります。実際のご使用にあたっては事前に実地で通信テストを行ってからシステム全体の最終的な配線・配置をされることを強くお勧め致します。又、ケーブルが長くなる場合はプラグ部分に直接ケーブルの重量負荷が掛からないように考慮して下さい。

アルインコ(株)　電子事業部